

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年6月28日

**【事業年度】** 第21期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

**【会社名】** チエル株式会社

**【英訳名】** CHleru Co.,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 川居 睦

**【本店の所在の場所】** 東京都品川区東品川二丁目2番24号

**【電話番号】** (03)6712 - 9721(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 若松 洋雄

**【最寄りの連絡場所】** 東京都品川区東品川二丁目2番24号

**【電話番号】** (03)6712 - 9721(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 若松 洋雄

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)				1,947,463	2,005,599
経常利益 (千円)				225,831	253,604
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)				157,317	183,926
包括利益 (千円)				157,317	183,926
純資産額 (千円)				1,335,511	1,515,890
総資産額 (千円)				2,288,788	2,442,192
1株当たり純資産額 (円)				349.76	391.97
1株当たり当期純利益 金額 (円)				41.88	47.93
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)				40.77	46.95
自己資本比率 (%)				58.4	62.1
自己資本利益率 (%)				12.7	12.9
株価収益率 (倍)				50.8	32.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)				281,270	141,438
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)				177,249	462,017
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)				29,319	16,012
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)				731,589	427,024
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (人)	( )	( )	( )	66 (27)	89 (40)

(注) 1. 第20期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
決算年月		平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高	(千円)	1,502,084	1,555,105	1,727,760	1,758,573	1,548,075
経常利益	(千円)	154,879	161,030	185,797	184,229	147,511
当期純利益	(千円)	101,059	91,510	118,647	128,475	95,510
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)			-	-	-
資本金	(千円)	300,000	300,000	306,863	321,523	329,785
発行済株式総数	(株)	60,000	60,000	1,841,100	3,818,400	3,879,600
純資産額	(千円)	769,615	861,126	1,148,875	1,306,670	1,418,633
総資産額	(千円)	1,527,671	1,649,899	2,067,227	2,169,849	2,179,918
1株当たり純資産額	(円)	241.78	270.53	312.01	342.20	365.67
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額)	(円)	( )	( )	( )	( - )	( - )
1株当たり当期純利益 金額	(円)	31.76	28.74	37.12	34.20	24.84
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額	(円)			37.07	33.30	24.33
自己資本比率	(%)	50.4	52.2	55.6	60.2	65.1
自己資本利益率	(%)	14.25	11.22	11.81	10.46	7.01
株価収益率	(倍)			25.9	62.2	63.0
配当性向	(%)			-	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	245,824	105,378	44,547	-	-
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	203,298	219,976	172,937	-	-
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	20,000		168,363	-	-
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	672,874	558,276	598,249	-	-
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数)	(人)	55 (16)	61 (12)	60 (16)	53 (22)	58 (25)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第18期までの株価収益率については、当社株式は非上場であったため、記載しておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第17期及び第18期においては、新株予約権の残高はありますが、当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。また、当社は、平成28年3月22日に東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場したため、第19期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、新規上場日から当事業年度末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

4. 第17期及び第18期の株価収益率については、当社株式は非上場であったため、記載しておりません。

5. 配当性向は、第17期、第18期、第19期、第20期及び第21期は配当を行っていないため記載しておりません。

6. 当社は、平成27年11月24日付で普通株式1株につき普通株式30株、平成28年10月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っておりますが、第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

7. 第20期より連結財務諸表を作成しているため、第20期及び第21期の持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

## 2 【沿革】

提出会社は、デジタル教材の企画開発販売を目的とする株式会社デジタルインスティテュートを前身としております。その後、平成18年10月に、教育システムの企画開発販売を目的とするアルプスシステムインテグレーション株式会社の教育事業部門を統合し、商号をチエル株式会社に変更いたしました。

提出会社設立以来の経緯は次のとおりであります。

年月	概要
平成9年10月	株式会社旺文社の100%子会社として、東京都大田区に株式会社デジタルインスティテュートを設立
平成11年12月	アルプスシステムインテグレーション株式会社(以下「ALSI」といいます。)が当社へ資本参加
平成14年4月	株式会社旺文社デジタルインスティテュートに商号を変更
平成15年2月	経済産業省委託事業「Eスクエア・アドバンス」の「携帯情報端末を活用したモバイル学習環境の実現」プロジェクトに参画
平成16年4月	学校向けクラウド型教材配信サービス「CHleru.net」の提供を開始
平成17年10月	特許「学習用シングルサインオンシステム」(特許第4652710号)を取得
平成18年7月	文部科学省委託事業「社会教育活性化21世紀プラン」の「水族館の仕事と人から学ぶ社会教育」事業に参画
平成18年10月	ALSIの教育事業部門を統合し、商号をチエル株式会社に変更
平成19年2月	情報漏洩対策ソフト「ファイル暗号化CR」の販売を開始
平成19年4月	産学連携の「フラッシュ型教材活用実践プロジェクト」において、専用Webサイト「eTeachers」を開設、全国各地で「フラッシュ型教材活用セミナー」を開始
平成19年4月	ネットワーク型学習評価システム「InterCLASS」が米国テキサス州ガーランド学区より4年連続で「Focus Customer Service Award(優秀ベンダー賞)」を受賞
平成20年2月	フルデジタルCALLシステム「CaLabo EX Ver.5.0」の販売を開始
平成20年8月	フラッシュ型教材の販売を開始
平成20年12月	韓国トップシェアのCALLシステムメーカー ORIENT AV社と「CaLabo EX」の販売代理店契約を締結
平成21年1月	Intelligent Eyes社よりタイにおける販売を開始
平成21年7月	授業支援システム「CaLabo LX」の販売を開始
平成21年8月	Zodiac Investment 社よりベトナムにおける販売を開始
平成22年4月	米国のDawn International社と「CaLabo EX」の販売代理店契約を締結
平成22年4月	モンゴルのMezorn LLC社と「CaLabo EX」の販売代理店契約を締結
平成22年8月	アクティブラーニング支援システム「CaLabo Bridge(CaLabo LMS)」の販売を開始
平成23年6月	「InterCLASS」が米国コロラド州ボルダー学区74校全てに標準採択される
平成23年6月	大学専用eラーニング教材販売ストア「CHleru.net for College(チエル ドット ネット フォー カレッジ)」を開設
平成23年7月	本社を東京都品川区に移転
平成23年8月	学内ICT運用管理ソリューション「ExtraConsole」の販売を開始
平成23年8月	ウイルス対策ソフト「Dr.WEB」の販売を開始
平成25年7月	韓国・ハンビット初等学校にタブレット対応の授業支援システム「T-CAT(Tablet Computer Assisted Tool)」を導入し、共同研究を開始

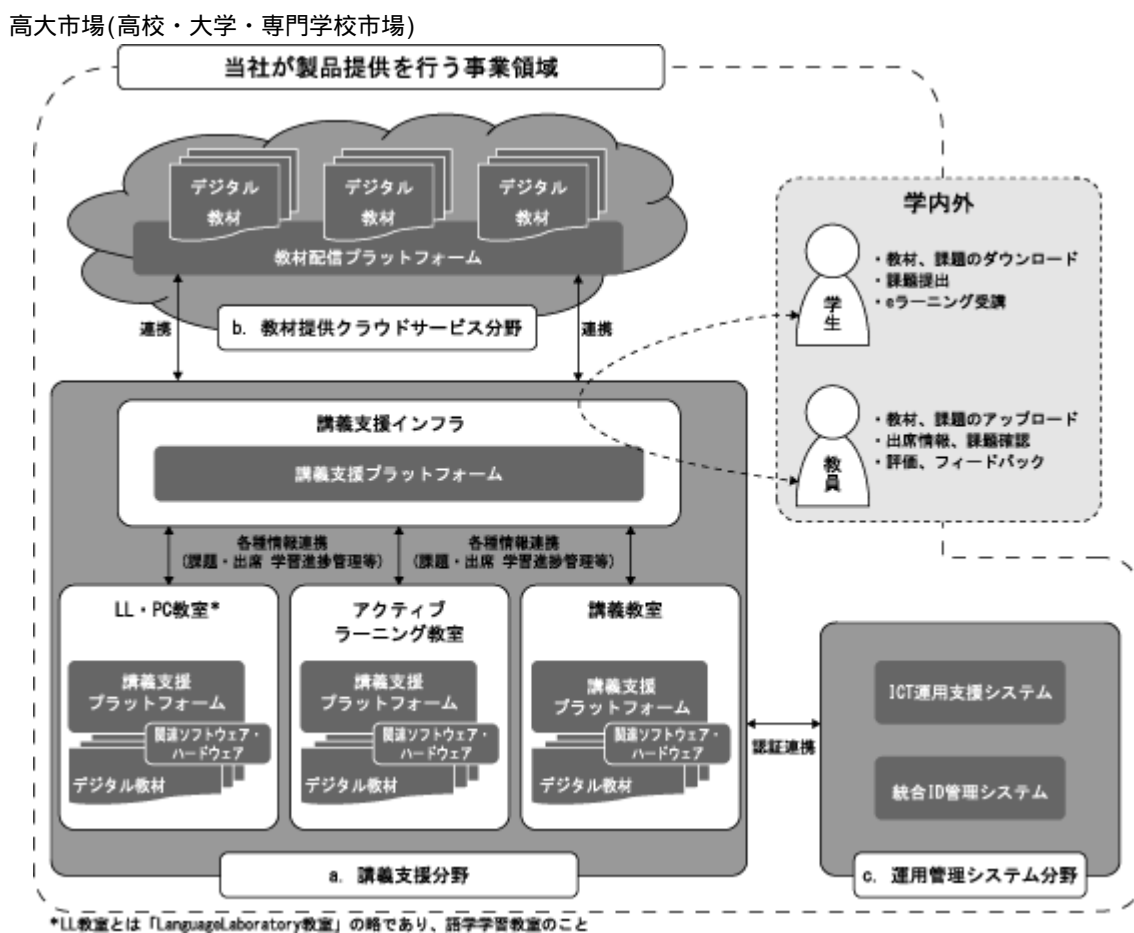
年月	概要
平成25年 8月	HDMI対応デジタル画像転送システム「S300-HD」の販売を開始
平成25年11月	タブレット対応デジタル教材の販売を開始
平成26年 4月	アクティブラーニング型学修支援教材「ABLish」の販売を開始
平成26年 4月	タブレット対応教務支援システム「らくらく授業支援」の販売を開始
平成26年 7月	タブレット対応教務支援システム「らくらく座席表評価」の販売を開始
平成26年 8月	タブレット対応教務支援システム「らくらく教材ナビ」の販売を開始
平成26年 8月	NEC、レノボら6社と共同で、児童・生徒に一人1台のICT環境を活用した授業の実証研究を開始
平成26年10月	無線LAN最適化ソリューション「Tbridge」の販売を開始
平成27年 1月	特許「教育教材ナビゲーション・システム」(特許第5760274号)を取得
平成27年 3月	タブレット対応教務支援システム「らくらく授業計画」の販売を開始
平成27年 3月	タブレット対応授業支援システム「CaLabo TX」の販売を開始
平成27年 5月	インドネシアのTrinet(トリネット)社と総販売代理店契約を締結
平成28年 3月	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
平成28年 7月	子会社として沖縄チエル株式会社を設立
平成28年 7月	語学学習支援プラットフォーム「CaLabo Language」の販売を開始
平成28年11月	株式会社インソースと企業向け研修の2分野での業務提携に合意
平成28年11月	国際産業技術株式会社と無線LAN最適化ソリューション「Tbridge」のエンタープライズ市場向け販売契約を締結
平成28年11月	株式会社すららネットと学校向けデジタル教材の共同開発に合意
平成28年11月	学校向けクラウド型教材配信サービス「CHleru.net」のユーザー数が300万人を突破
平成28年12月	「バイエル ライフ イノベーション アワード2016」で独創特別賞を受賞
平成29年 3月	株式会社コラボレーションシステムと資本・業務提携契約を締結
平成29年 3月	株式会社東大英数理教室と株式取得(子会社化)に関する「基本合意書」を締結
平成29年 4月	株式会社 VERSION2 を子会社化
平成29年 4月	株式会社ダイヤ書房と資本・業務提携契約を締結
平成29年 9月	株式会社コラボレーションシステムを子会社化
平成29年 9月	ソフトキャンブジャパン株式会社、Venture Bridge Co.,Ltd.との合併により、SHIELDEX株式会社を設立
平成29年 9月	特許「中継装置、中継方法及び中継プログラム」(特許第6145190号)を取得
平成29年10月	ワンピ株式会社を持分法適用関連会社化

### 3 【事業の内容】

#### (1) 当社の事業領域

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、連結子会社（沖縄チエル株式会社、株式会社コラボレーションシステム、株式会社東大英数理教室、株式会社VERSION2）、関連会社（株式会社ダイヤ書房、ワンビ株式会社、SHIELDEX株式会社）の計8社で構成されており、単一セグメントとして学校教育ICT事業を営んでおります。対象となる主な市場は、小学校、中学校、高校、大学及び専門学校です。当該市場向けに、教務支援機能(教員の「教える」仕事を支援する機能)を中心としたシステム及びデジタル教材の企画・開発・製作・販売を行っております。

当社グループは、「学校教育ICT市場に特化し、子供たちの可能性のある未来のために、『教育』と『ICT』をつなぐイノベーターとして貢献してまいり」ことをビジョンとして掲げ、学校教育市場を大きく、「高校・大学・専門学校市場（以下、「高大市場」とします）」、「小学校・中学校市場（以下、「小中市場」とします）」とに区分して、事業活動を展開しております。市場別にイメージした模式図及びそれぞれの市場における当社グループの事業の概要は次のとおりとなります。



当社グループの高大市場向け製品・サービスは、主に各種教室における講義を支援する「a. 講義支援分野」、生徒・学生が活用するデジタル教材の配信を行う「b. 教材提供クラウドサービス分野」、講義教室だけでなく図書館等の講義教室外における学習も含めて側面から支援する「c. 運用管理システム分野」の領域に基づき、顧客である高校・大学に提供しております。

#### a. 講義支援分野

講義支援分野では、講義支援プラットフォームを中心に提供を行っております。高大市場向け講義支援プラットフォームは、主に学内のLL・PC教室や講義教室、アクティブ・ラーニング教室において活用されるシステムであり、学生PC・タブレットのモニタリングや制御、デジタル教材の一斉配布といった講義運営に求められる機能を複数保有しております。

これらの講義支援プラットフォームは、複数のプラットフォーム間連携が可能となっております。

また、クラウド上の教材配信プラットフォームとも連携が可能であるため、学内の教務を全面的に支援するソリューションの構築を実現しております。

また、当社グループは、講義支援プラットフォームだけでなく、活用にあたって必要となるデジタル教材やセキュリティ関連ソフトウェア、ハードウェアもラインナップとして取り揃えており、講義支援プラットフォームとともに提供しております。

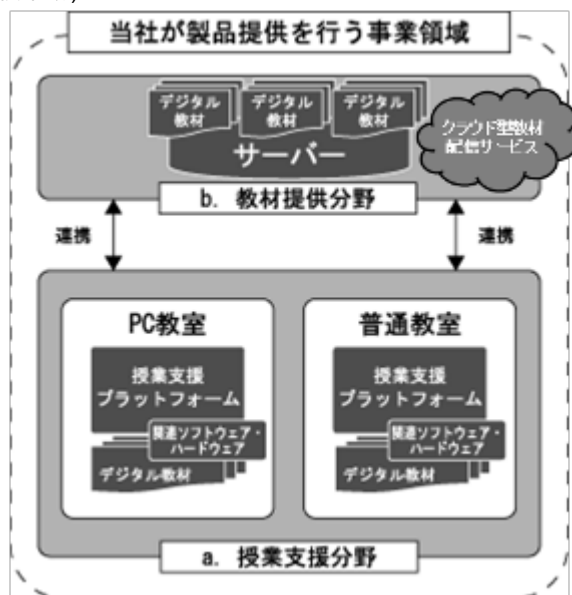
#### b. 教材提供クラウドサービス分野

教材提供クラウドサービス分野では、生徒・学生が講義室外でも学習を行うための教材配信プラットフォーム及びデジタル教材の提供を行っています。教材配信プラットフォームは、当社が運用するプラットフォームであり、当社独自のユーザー管理・学習管理機能や課金システムを保有し、今後も様々な教材提供が可能です。デジタル教材は、学内外における生徒・学生の自主学習、アクティブ・ラーニング教室での語学学習といった様々な環境において活用されております。

#### c. 運用管理システム分野

運用管理システム分野では、講義教室だけでなく図書館等の講義教室外の端末も含め一元運用管理を支援するICT運用支援機能と、ID/パスワードをはじめとするユーザー情報を一元管理する統合ID管理機能を備えたシステムの提供を行っています。大学内端末の一元運用管理を行うことで講義教室以外での学習においても当社システムが活用可能となります。

#### 小中市場(小学校・中学校市場)



当社グループの小中市場向け製品・サービスは、主に学校内の授業を支援する「授業支援分野」、児童生徒が活用するデジタル教材の配信を行う「教材提供分野」の領域に基づき、顧客である中学校・小学校・教育委員会に提供しております。

#### a. 授業支援分野

授業支援分野では、授業支援プラットフォームを中心に提供を行っています。小中市場向け授業支援プラットフォームは、主に学内PC教室や普通教室において活用されるシステムであり、児童生徒PC・タブレットのモニタリングや制御、教員の授業計画策定・児童生徒評価の記録支援といった授業運営に求められる機能を複数保有しております。

また、当社グループは授業支援プラットフォームだけでなく、活用にあたって必要となるデジタル教材やセキュリティ関連ソフトウェア、ハードウェアもラインナップとして取り揃えており、授業支援プラットフォームとともに提供しております。



b. 教材提供分野

教材提供分野では、教員用提示デジタル教材や児童生徒用デジタル教材を提供しております。なお、従来よりCD-ROM・サーバーの形態で提供していましたが、新たに「CHleru.net for School」としてクラウドでの提供を開始いたしました。

また、教員が活用する教材であるフラッシュ型教材\*の一部は、当社が運営するeTeachersサイト(フラッシュ型教材ダウンロードサイト)において無料で提供しており、多くの教員の方々に活用いただいております。

\*フラッシュ型教材は、学校でよく使用される、課題を次々と提示するフラッシュカードのデジタル教材版をいいます。

(2) 企画・開発状況

当社グループの企画・開発状況は、次のとおりです。

システム

当社グループは、教務支援機能を中心としたシステムを企画・開発しております。創業当初より教員からの情報収集に注力し、学校教育現場のニーズに対応した製品の企画・開発を進めております。また、教務支援に関するノウハウ・技術力を蓄積しており、一部製品については特許を保有しております。このようなノウハウ・技術力や特許を活用するとともに、ユーザーである教員及び児童・生徒・学生のニーズを迅速に反映することで、常に競争力のあるシステム提供を行っております。

当社グループが企画・開発しております主な製品群は、次のとおりです。

高大市場向け	
講義支援分野	
フルデジタルCALLシステム*「CaLabo EX」	デジタル教材、音声、画像をデジタル配信するCALL教室向け語学学習支援システムです。
授業支援システム「CaLabo LX」	PC教室での授業に欠かせない画面モニタリングや操作ロック機能を搭載した授業支援システムです。
タブレット対応授業支援システム「CaLabo TX」	タブレット端末を利用したアクティブ・ラーニング型授業に対応する授業支援システムです。
語学学修プラットフォーム「CaLabo Language」	PC・タブレット・スマートフォンに対応し、いつでもどこでも語学学習を可能とするシステムです。語学の4技能のうち、特にリスニング力・スピーキング力の強化に効果的です。
アクティブ・ラーニング支援システム「CaLabo Bridge」	講義管理機能、「CaLabo EX」「CaLabo LX」との連携、配布資料やレポート課題の一元管理を通じて、複数の講義室での授業の双方向性を高めるタブレット対応授業支援システムです。
教材提供クラウドサービス分野	
教材配信プラットフォーム「CHleru.net」	主に高大市場を対象に、語学学習教材などのeラーニング教材を提供する学校向けクラウド型教材配信サービスです。
運用管理システム分野	
学内ICT運用管理ソリューション「ExtraConsole」	学内端末やユーザー情報を一元管理し、学内資産の機能性向上を図る運用管理ソリューションです。
小中市場向け	
授業支援分野	
タブレット対応教務支援システム「らくらく先生スイート」	授業の準備・評価・計画・運営などの教員の教える仕事を支えるタブレット対応教務支援システムです。
ネットワーク型学習評価システム「InterCLASS」	PC教室において、普通教室の学習の振り返りを実現するPC教室向け授業支援システムです。

\* CALLシステムは、コンピュータを活用して語学学習を支援するシステムのことをいいます。

CALLは「Computer Assisted Language Learning」の略です。

## デジタル教材

当社グループは、当社グループにて企画・開発したデジタル教材の他、株式会社旺文社が保有する豊富な英語教材をはじめ、複数の企業から制作協力をいただき、教材群の充実を図っております。クラウド型デジタル教材群は、自社運用のクラウド型教材配信プラットフォーム「CHleru.net」を通じて販売しております。また、その他の各種教材は、利用目的に応じて企画・開発しております。

当社が企画・開発する主な教材群は、以下のとおりとなります。

高大市場向け		(制作協力)
クラウド型英検対策教材「旺文社・英検CAT」 「CHleru.net」に対応しており、英検に必要な対策を学習できるeラーニング教材です。		(株)旺文社
アクティブ・ラーニング型学修(学習)支援教材「ABLish」 世界のニュースを難易度別にトピック化し定期的に配信する、アクティブラーニング型英語ニュース教材です。		(株)インターアクト・ジャパン
クラウド型TOEFL®テスト・TOEIC®テスト対応教材「スーパー英語」 リスニングやリーディングの向上に必要な学習コンテンツが利用できる、受験対策用のeラーニング教材です。		(株)エル・インターフェース
ムービーテレコ対応映像・音声教材「Adventures Abroad」等 「CaLabo EX」で利用が可能な、映像・音声教材学習ツール「ムービーテレコ」に対応した英語学習教材です。		(株)マクミラン ランゲージハウス
小中市場向け		(制作協力)
検定式デジタル教材 「基礎・基本 計算検定」「基礎・基本 国語検定」 個別学習に合わせた検定式のデジタル教材です。繰り返し学習で定着を図るとともに、進級する仕組みによって学習意欲を喚起します。		-
タブレット対応 教師用提示教材「フラッシュ型教材」シリーズ 漢字、計算、英語活動、食育、漢検などを題材に、フラッシュカードのように課題を瞬時に切り替えて表示することで、基礎・基本知識の習得を支援するデジタル教材です。		(株)教育同人社 等
タブレット対応 生徒児童用教材「個別学習型教材」シリーズ 児童生徒が一人でも、楽しく、繰り返しながら、基礎・基本知識を習得できる教材です。		
ドリル型eラーニング教材「基礎・基本定着ドリル」 個別学習・家庭(反転)学習による基礎・基本の定着を図るドリル型eラーニング教材です。アダプティブラーニング(適応学習)機能で児童生徒の理解度に応じた学習を支援します。		(株)すららネット

## OEM製品

当社グループは、講義支援プラットフォームや授業支援プラットフォーム等の円滑な稼働をバックアップするためのセキュリティ関連のソフトウェア、画像転送システム等のハードウェアを、国内外企業よりOEM供給を受けて販売しております。

当社グループがOEM供給を受けております主なソフトウェア及びハードウェアは、次のとおりです。

ソフトウェア	
Webフィルタリングソフト「InterSafe plus」	
ウイルス対策ソフト「Dr.WEB」	
システムリカバリソフト「WinKeeper」	
タブレット セキュリティソフト「WinKeeper TB」	
ファイル・メール無害化ソリューション「SHIELDDEX」	
ハードウェア	
画像転送システム「S300-AV」、「S300-HD」 PC教室やCALL教室において、AV機器や教員端末の映像・音声を転送するシステムです。	
無線LAN最適化ソリューション「Tbridge」 学内の通信環境を最適化し、無線LAN使用時のストレスを軽減させるアプライアンス製品です。	

(3) 販売体制

製品の販売につきましては、原則として販売代理店を経由して行っており、当社グループの営業部門は、主に、エンドユーザーである教員及び児童・生徒・学生のニーズの収集やシステム導入の提案を行っております。エンドユーザーである教員とのコンタクトを密にすることが、営業上のみならず製品の機能改善においても重要であり、主に以下の施策を行っております。

ホームページや情報誌（CHleru Magazine）を利用して、導入事例等を積極的に公開しております。

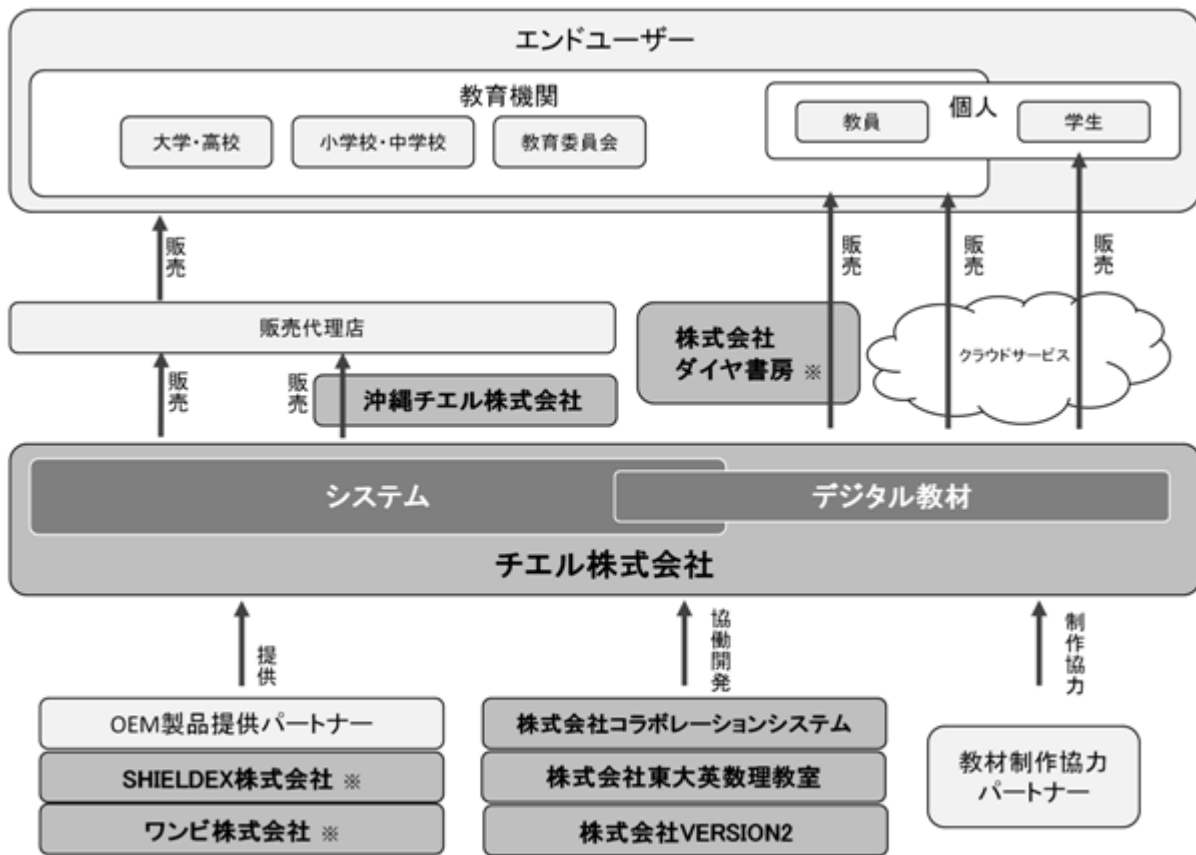
教員向けの各種セミナーを実施し、当社の製品の紹介だけでなく教育現場の現状を発信しております。また、当社が運営するサイト「eTeachers」においては、教員が教育現場で実践的に利用できる教材や教育方法の紹介を行っております。

一部の大学については、大学の教員及び学生に対して当社製品の使用に関する支援を行う人員を配置し、当社製品のニーズを収集しております。

上記の活動に加えて、営業所を各地に配置し、営業所周辺の出身者を積極的に採用することにより、エンドユーザーである教員との密接なコンタクトを容易にし、それにより得られた情報をもとに製品のさらなる機能改善を図り、より効率的な販売活動に結び付けております。

[ 事業系統図 ]

事業系統図を示すと、以下のとおりとなります。



※印は、持分法適用関連会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社)					
沖縄チエル株式会社(注)	沖縄県那覇市	10,000	教育用ソフトウェア の販売	100.0	沖縄県における当社グループ製品の販売 役員の兼任1名
株式会社コラボレーションシステム	福岡県福岡市 博多区	10,000	学校におけるシステム運用・監視などの パッケージソフトの開発及び販売	100.0	製品開発およびマーケティングの協働 役員の兼任1名
株式会社東大英数理教室	東京都文京区	30,000	教育用ソフトウェア 企画、開発及び販売	100.0	当社グループで販売するデジタル教材の制作
株式会社VERSION2	北海道札幌市 中央区	20,000	教育用ソフトウェア 企画、開発及び販売	100.0	製品開発の協働 役員の兼任2名
(持分法適用関連会社)					
ワンビ株式会社	東京都渋谷区	67,000	データ消去関連製品・サービスの開発・販売	48.1	セキュリティ製品に関する業務提携
SHIELDDEX株式会社	東京都品川区	20,000	情報セキュリティ製品の企画、開発及び販売	39.0	セキュリティ製品に関する業務提携 役員の兼任1名
株式会社ダイヤ書房	北海道札幌市東区	99,000	教科書、教材販売、各種検定受付等、教育に関する商材の販売	20.0	高校市場へのデジタル教材の販売

(注) 沖縄チエル株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	263,696千円
	経常利益	30,405千円
	当期純利益	20,943千円
	純資産額	57,429千円
	総資産額	147,731千円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
学校教育ICT事業	89(40)
合計	89(40)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(契約社員、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、最近1年間の平均人員を( )外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
58(25)	38.1	4.8	6,214,250

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(契約社員、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、最近1年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 当社の事業セグメントは、学校教育ICT事業の単一セグメントであるため、セグメント別の従業員の記載は行っておりません。

### (3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの対処すべき課題は、以下のとおりであると認識しております。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 優秀な人材の確保及び組織体制の充実

当社グループが事業を拡大していくためには、各業務部門において、相応の専門性やスキルを有する優秀な人材の確保が重要な課題であると認識しております。そのような人材を確保するため、事業規模に応じた少人数での効率的な事業運営を意識しつつも、採用活動の強化による人材の採用、研修制度、人事評価制度の充実等による人材の教育・育成を進める方針であります。

こうした人材の確保に合わせて、事業拡大に応じた内部管理体制の強化を図るとともに、より一層のコーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでまいります。

#### (2) デバイスの多様化への対応

急速に普及しているスマートフォンやタブレット型PCなどモバイル端末及び無線LANなどの利用環境の変化に対応しながら、これらを有効に活用できる商品や教材に対する需要が高まるものと認識しております。当社グループでは、多様化するデバイスの特性や利用シーンに応じた商品や教材の開発・提供に積極的に取り組んでまいります。

#### (3) クラウド提供教材の拡充

当社グループでは、「CHleru.net」において各種教材をクラウドで提供しておりますが、クラウド化へのニーズの高まりに対応し、クラウドで提供する教材数の増加、教材の機能強化等に積極的に取り組んでまいります。

#### (4) 製品のグローバル化対応

当社グループの一部の製品はグローバル対応が未了となっております。少子化の影響により長期的には国内市場の縮小が見込まれる一方で、文教ICT市場で日本を先行する韓国や経済成長が今後も見込まれるASEAN諸国など、海外での販売を拡大するため、グローバル化対応製品の強化に取り組んでまいります。

#### (5) 販売力の強化

当社グループは、全国に営業拠点を設置し、地域に密着した営業に努めておりますが、既存の営業拠点では十分な対応が図れていない地域が存在すると認識しております。そのため、より効率的効果的な営業活動を実現するために費用対効果を勘案のうえ、営業拠点の新設を検討してまいります。

## 2 【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

### (1) 国や地方自治体の施策による影響について

我が国の施策としてICTを活用した教育の情報化が推進されていることにより、当社グループの商品・製品が属する市場規模は今後拡大していくことが予想されます。

しかしながら、国の施策が変更された場合には市場の成長が鈍化し、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、学校に対する売上高は、導入先の性質上、獲得された予算規模や予算執行状況に大きく影響を受ける可能性があります。

### (2) ICT分野における新技術への対応による影響について

当社グループは、ICT関連技術に基づいて事業を展開しておりますが、ICT分野における新技術や新サービスは激しく変化しております。これらの変化に対応するため、当社では、積極的に研究開発を行い、新技術への対応を行っております。

しかしながら、研究開発の遅延した場合や、優秀な開発人材の確保が順当に行えなかった場合には、技術革新に適切に対応できない可能性があります。その結果、当社グループの製品開発能力の低下を招き、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 少子化による影響について

当社グループの主たる市場は、学校教育をICTでサポートする「学校教育ICT市場」であります。そのため、少子化によって長期的には当社製品の利用者が減少する可能性があります。ただし、今後、我が国のICTを活用した教育の情報化推進施策や、少子化に直面した教育機関が質の高い教育を提供するため積極的な情報化投資を推進することが見込まれるため、当面は「学校教育ICT市場」の市場規模は拡大していくものと考えております。

しかしながら、少子化の影響が想定以上に大きく、当社グループ製品の利用者が予想以上に減少し、教育機関の情報化投資が減少した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) CALL/PC教室システムの市場動向による影響について

当社グループは学校教育ICT市場向けに多様な製品を提供しておりますが、平成30年3月期において、「CaLaboEX」「CaLaboLX」「S300-AV」等、CALL/PC教室システム市場向けの関連製品群が売上高の約3割を占めております。当社グループでは、同市場が安定的に推移することを見込んでおりますが、急激な環境変化に対応すべく、CALL/PC教室システム市場以外への取組みの強化にも努めております。

しかしながら、CALL/PC教室システム市場が急激に縮小していった場合や、当社グループ製品の市場競争力が低下し、他の製品への切り替えが行えない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) ソフトウェアに関する影響について

当社グループでは、自社開発製品のほか、他社からOEM供給を受けているソフトウェアの販売も行っており、主として文教市場でニーズの高いセキュリティ関連製品を、国内外の他のソフトウェアメーカーから調達し、販売代理店を通じてエンドユーザーである学校等に販売しております。

OEM製品については、OEMメーカーと長期安定的な関係を築きながら、安定的な調達を行っておりますが、何らかの事情により、取引が継続できなくなった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) ハードウェアに関する影響について

当社グループは、画像転送システム、無線LAN最適化ソリューション等のハードウェアについては、国内外の他のハードウェアメーカーからのOEM供給を受けて販売することを主流としておりますが、当社グループが提供するハードウェアは、特殊な製造技術が必要とするものではなく、一般的な製造技術で生産可能であり、基本的な設計等については自社で管理していることから、万一供給元であるメーカーの倒産等によって製品供給が困難となった場合であっても、他のメーカーへの切り替えは可能であると考えております。

しかしながら、代替先との契約に長期間を要した場合や、相手国における政治経済情勢の悪化、輸出入及び外資の規制、予期しない法令の変更、テロ・戦争、その他の要因による社会的混乱等があった場合には、当社グループが提供するハードウェアの供給に影響を及ぼすことも考えられ、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 業績の季節的変動による影響について

当社グループの四半期における業績は、第2四半期及び第4四半期において、売上高及び営業利益が偏重する傾向にあります。

これは、第2四半期については主力商品・製品の導入先である学校が長期の休みに入る時期に導入案件が増加すること、第4四半期については導入先の年度予算の執行等の関係により販売代理店を通じた受注が増加することによるものであります。

当社グループは、当該季節的要因を踏まえた販売計画を策定し、受注の増加が見込まれる時期の売上の確保に努めておりますが、何らかの事情により当該期間の受注が計画通りに獲得できなかった場合や、当社グループが導入機器の設置まで行う受注形態で決算月である3月に予定されていた検収が翌期以降に遅れる場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

	当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)						通期
	上半期			下半期			
	第1四半期	第2四半期		第3四半期	第4四半期		
売上高(千円)	215,438	751,926	967,364	328,721	709,513	1,038,234	2,005,599
構成比(%)	10.7%	37.5%	48.2%	16.4%	35.4%	51.8%	100.0%
営業利益又は 営業損失( )(千円)	129,768	182,871	53,102	50,311	198,293	147,981	201,084
構成比(%)	-	-	26.4%	-	-	73.6%	100.0%

(8) 販売代理店政策による影響について

当社グループは、販売代理店制度を採用しており、当社グループの営業部門が、主にエンドユーザーである先生、学生や児童生徒のニーズの収集や教育システム導入の提案を行っている一方で、当社グループの商品・製品の大部分は販売代理店を経由して利用者に販売されております。そのため、主要販売代理店の販売状況や経営環境の変化によって、当社グループの売上高が大きく変動する可能性があります。

当社グループは、主要販売代理店と良好な業務関係の維持に努め、当社グループの商品・製品の販売拡大に努めておりますが、これらの代理店は他社の競合商品・製品も取り扱っており、主要販売代理店の方針により当社グループの商品・製品の取り扱いが縮小された場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。



(9) 入札制度による影響について

当社グループは、販売代理店制度を採用しており、当社グループの商品・製品の大部分は販売代理店を経由して利用者に販売されておりますが、当社グループの商品・製品は、大学、地方自治体や教育委員会等の機関が作成した「機器仕様書・仕様書」に基づく設備・ICT機器・教材の入札公告(一般競争入札、指名競争入札等)に、販売代理店が入札・応募し、落札することで、利用者である教育機関に導入される流れとなっており、事業の特性上、入札結果が当社以外の要因に左右される性格を有しております。そのため、何らかの要因によって入札の不調、遅延等が起こった場合や、当社グループが想定するような入札結果が得られなかった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 自然災害等による影響について

地震、台風、津波等の自然災害、火災、各種感染症の拡大等が発生した場合、当社グループの事業運営に深刻な影響を及ぼす可能性があります。特に、当社グループの主要な事業拠点である首都圏において大規模な自然災害等が発生した場合には、正常な事業運営が行えなくなる可能性があり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、自然災害等が発生した場合に備え、体制を整備しておりますが、自然災害等による人的、物的損害が甚大である場合は、事業の継続そのものが不可能になる可能性があります。

(11) 製品の不良による影響について

当社グループは、主要な製品・デジタル教材については社内で開発を行っており、新製品のリリースに当たっては、開発部門と異なる部門が検証を十分に行い、開発・品質管理体制の強化を図っております。また、リリース後に発見されたバグ等については、迅速に対応しており、大きな問題が生じたことはありません。

しかしながら、ソフトウェア開発はその性質上、プログラム等に生じたバグを完全に排除することは難しく、万が一にも重大なバグが生じた場合、製品を利用することができない可能性があります。

こうした事態が生じた場合、教育現場での混乱や当社製品の信用力の低下を招き、結果的に、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、取引先やエンドユーザーからの損害賠償の訴訟等が提起され、不測の損害が生じる可能性もあります。

(12) 知的財産権にまつわる影響について

当社グループが提供する製品及びサービスに対して、これまで知的財産権にまつわる侵害訴訟等を提起されたことはありません。当社グループは、第三者の知的財産を侵害しないよう日頃より注意を払っておりますが、当社が認識していない範囲で第三者の知的財産を侵害し、損害賠償や対価の支払い等を請求された場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、損害賠償の訴訟等が提起され、不測の損害が生じる可能性もあります。

また、第三者が当社の製品を模倣する等により当社の知的財産を侵害するような場合においては、売上の減少等により当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 小規模組織であることについて

本書提出日現在における当社組織は、取締役5名(うち非常勤取締役1名)、監査役3名(うち非常勤監査役2名)、従業員数83名(臨時従業員含む)であり、会社の規模に応じた内部管理体制や業務執行体制となっております。このため、業容の拡大に応じた人員を確保できず業務遂行に支障が生じた場合、あるいは役職員が予期せず退職した場合には、内部管理体制や業務執行体制が有効に機能せず、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 経営陣への依存について

当社代表取締役川居睦をはじめとする経営陣は、各担当業務分野において、重要な役割を果たしております。これら役員が業務執行できなくなった場合、当社グループの事業運営に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループでは過度に経営陣に依存しない経営体制を構築すべく、組織規模の拡大に応じた権限移譲を進めるとともに、役員及び幹部社員による情報の共有化等を通じて経営組織の強化を図っております。

しかしながら、現時点で何らかの理由により、主要経営陣の業務遂行が困難となった場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 優秀な人材の確保や育成について

教育の情報化推進ニーズに応えるため、高度な専門知識を有する優秀な技術者を安定的に確保する必要があります。当社グループでは、必要な技術の習得や開発ノウハウを蓄積するなど、計画的な技術者の育成に努めております。

しかしながら、IT業界における慢性的な人材不足等により、当社グループが必要とする時期に必要な技術者を十分に確保できなかった場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(16) 個人情報流出による影響について

当社は、「個人情報の保護に関する法律」における「個人情報取扱事業者」に該当することから、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制の構築・維持の一環として、平成22年11月12日からプライバシーマーク(第10823718(04)号)を取得し、個人情報の適切な取り扱いに努めております。

しかしながら、何らかの原因により個人情報が漏えいした場合には、当社グループへの信頼が損なわれ企業イメージの低下を招くなど、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、損害賠償の訴訟等が提起され、不測の損害が生じる可能性もあります。

(17) システムダウン及び情報セキュリティに係るリスクについて

当社グループのクラウド型教材配信システムである「CHleru.net」は、インターネット環境が十分に整備されていることを前提に運営しております。また、外部のデータセンター運営会社と協力し、運営に必要なコンピュータネットワーク等について情報セキュリティの強化を推進しております。しかし、インターネット環境が何らかの理由で阻害されたり、従業員・パートナー事業者の過誤、コンピュータシステムの瑕疵、自然災害、コンピュータウイルス、ネットワークへの不正侵入、アクセス増加等の一時的な過負荷等に基づき、重要データの漏えい、コンピュータプログラムの不正改ざん、システムダウン等が発生する可能性があります。

こうした事態が生じた場合、当社グループの教材をWEB上で利用しているユーザーはサービスを利用することができなくなり、当社グループの信用力の低下を招き、結果として、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(18) ソフトウェアの資産計上に伴う費用化による影響について

当社グループは「研究開発費等に係る会計基準」(企業会計審議会 平成10年3月13日)に従い、研究開発費の一部について、適切に資産計上及び減価償却を行っており、無形固定資産(ソフトウェア、ソフトウェア仮勘定の合計)は、平成28年3月期末217,731千円、平成29年3月期末312,798千円、平成30年3月期末420,089千円となっております。

今後、研究開発の結果として資産計上されるソフトウェアが増加した場合には、それに伴う減価償却費も増加することとなり、当社グループの将来の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(19) 法的規制による影響について

現時点で、今後の当社グループの事業そのものを規制対象とする法的規制はないものと認識しておりますが、IT業界の変革は激しく、状況に応じては、今後新たな法令等の整備が行われる可能性があり、その内容によっては、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(20) 配当政策について

当社グループは会社設立以来、企業体質の強化及び継続的な商品開発に備えた資金の確保を優先し、株主に対する配当を実施しておりません。当社グループは、事業の拡大過程にあり、内部留保の充実を重視する方針であります。

しかしながら、株主への利益還元については、当社の重要な経営課題と認識しており、今後財政状態及び経営成績を勘案しつつ、配当の実施を検討する所存であります。

(21) 新株予約権の行使による株式価値の希薄化について

当社グループは、取締役及び従業員に対するインセンティブを目的として、新株予約権を付与しております。これらの新株予約権が行使された場合、当社グループの株式が新たに発行され、既存の株主が有する株式の価値及び議決権割合が希薄化する可能性があります。

本書提出日の前月末現在におけるこれらの新株予約権による潜在株式数は60,000株であり、発行済株式総数3,879,600株の1.5%に相当しております。

(22) 資金使途について

平成28年3月に実施した公募増資等による資金調達の使用につきましては、研究開発資金及び販売目的ソフトウェア開発資金に充当する予定であります。しかしながら、変化する経営環境に柔軟に対応するため、現時点での計画以外の使途にも使用される可能性があります。また、当初の計画通りに資金が使用された場合においても、計画通りの効果が達成できない可能性があります。

(23) M&Aについて

当社グループは、事業拡大を加速する有効な手段のひとつとして、当社グループに関連する事業のM&Aを検討していく方針です。M&A実施に際しては、対象企業の財務・法務・事業等について事前にデューデリジェンスを行い、十分にリスクを吟味した上で決定いたしますが、買収後に偶発債務の発生や未認識債務の判明等、事前の調査で把握できなかった問題が生じた場合、また事業の展開等が計画通りに進まない場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用関連会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における我が国経済は、政府や日銀による経済・金融政策の効果等を背景に企業収益や雇用情勢の改善が見られ、景気は緩やかな回復基調が続きました。

現在、文教市場では、『第2期教育振興基本計画』（平成25年6月閣議決定）に基づき、いずれの学校種においても、教育の質的転換を図るべく能動的な学修「アクティブ・ラーニング」による授業が強く求められ、着実に進められているところです。とりわけ小学校・中学校では、2020年の学習指導要領改訂期を目標に、協働学習には必須のタブレット端末等を活用した「一人1台の情報端末」時代の実現に向け、環境整備への機運が高まりつつあります。

このような市場動向のもと、当連結会計年度の当社グループ業績は、高校・大学市場向けが前年同期比で増加しましたが、小学校・中学校市場向けは減少しました。

高校・大学市場では、講義支援分野および運用管理システム分野の製品の受注額が前年同期比で増加しました。小学校・中学校市場では、授業支援分野の受注額は前年同期比で減少を示し、教材提供分野の受注額は前年同期比で増加を示しました。その結果、当連結会計年度における高校・大学市場と小学校・中学校市場の受注金額構成比は81%：19%となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は2,005,599千円（前年同期比3.0%増）、営業利益201,084千円（前年同期比2.6%減）、経常利益は253,604千円（前年同期比12.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は183,926千円（前年同期比16.9%増）となりました。

資産の額は、2,442,192千円（前連結会計年度末は2,288,788千円）となり、153,403千円増加しました。負債の額は、926,301千円（前連結会計年度末は953,276千円）となり、26,975千円減少しました。純資産の額は、1,515,890千円（前連結会計年度末は1,335,511千円）となり、180,378千円増加しました。

なお、当社グループは、学校教育ICT事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりません。

##### 資本の財源及び資金の流動性についての分析

##### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の残高は427,024千円（前年比304,565千円減）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、141,438千円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益249,484千円、減価償却費156,180千円があった一方で、売上債権の増加56,864千円、仕入債務の減少113,054千円、法人税等の支払額が73,841千円生じたことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、462,017千円の支出となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出が259,036千円、関係会社株式の取得による支出が202,840千円生じたことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、16,012千円の収入となりました。これは主に新株予約権の行使に伴う株式の発行により16,524千円の収入があったことによりです。

なお、当社グループは、設備投資及び短期的な運転資金は原則として自己資金で賄っており、必要に応じ金融機関からの借入による調達をおこなう方針であります。

##### 生産、受注及び販売の状況

##### a. 生産実績

当社グループは単一セグメントであり、当連結会計年度の実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
学校教育ICT事業	505,732	114.6

(注) 1. 金額は製品製造原価とソフトウェアのうち自社開発分(資産計上分)の合計により算出しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

##### b. 受注状況

当社グループは、受注生産を行っていないため、受注実績の記載は省略しております。

## c. 販売実績

当社グループは単一セグメントであり、当連結会計年度の販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
学校教育ICT事業	2,005,599	103.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたっては、当連結会計年度末における財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与えるような見積り、予測を必要としております。当社グループは、過去の実績値や状況を踏まえ合理的と判断される前提に基づき、継続的に見積り、予測を行っております。そのため実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

## 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

## a. 経営成績の分析

## (売上高)

当連結会計年度の売上高は2,005,599千円（前年同期比3.0%増）となりました。内訳として、高校大学市場向け製品の売上が好調でした。

## (売上原価、売上総利益)

当連結会計年度は、売上原価が888,713千円（前年同期比11.3%減）、売上総利益が1,116,885千円（前年同期比18.1%増）となりました。

## (販売費及び一般管理費、営業利益)

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は915,801千円（前年同期比23.8%増）となりました。以上の結果、当連結会計年度の営業利益は201,084千円（前年同期比2.6%減）となりました。

## (営業外損益、経常利益)

当連結会計年度の営業外収益は55,493千円となりました。当連結会計年度の営業外費用は2,972千円となりました。

以上の結果、当連結会計年度の経常利益は253,604千円（前年同期比12.3%増）となりました。

## (親会社株主に帰属する当期純利益)

当連結会計年度の法人税等合計は65,558千円となりました。

以上の結果、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益は183,926千円（前年同期比16.9%増）となりました。

## b. 財政状態の分析

## (資産)

当連結会計年度末における資産の額は、2,442,192千円（前連結会計年度末は2,288,788千円）となり、153,403千円増加しました。内訳は、流動資産が1,482,266千円、固定資産が959,925千円となっております。流動資産には、現金及び預金が607,264千円、売掛金が653,425千円含まれております。

## (負債)

当連結会計年度末における負債の額は、926,301千円（前連結会計年度末は953,276千円）となり、26,975千円減少しました。内訳は、流動負債が774,995千円、固定負債が151,305千円となっております。流動負債には前受金が480,723千円含まれております。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の額は、1,515,890千円となり（前連結会計年度末は1,335,511千円）となり、180,378千円増加しました。内訳は、資本金329,785千円、資本剰余金119,099千円、利益剰余金1,087,077千円となります。

c. 経営成績に重要な影響を与える要因についての分析

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載しております。

d. 経営戦略の現状と見通し

現在の学校教育を取り巻く環境の変化として、2020年度より実施される新たな「学習指導要領」の公表および教育政策「第3期教育振興基本計画」（計画期間 2018～2022年度）に関する答申の公表が挙げられます。これらにより、情報活用能力の育成、授業の改善および教職員の業務改善を実現するためのICT環境の整備が進行するものと見込まれます。このような環境変化に対して、市場のニーズを満たす新製品を継続的に投入できるようにするとともに、既存製品のバージョンアップにも積極的に取り組んでまいります。

e. 経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針については「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載しております。

## 4 【経営上の重要な契約等】

(株式会社 VERSION2の株式取得による子会社化)

当社は、平成29年4月14日開催の取締役会において、株式会社 VERSION2の全株式を取得して子会社化することについて決議しました。また、平成29年4月21日付けで株式を取得したことにより子会社化しました。

詳細については、「第5 経理の状況 注記事項（企業結合等関係）」の項を参照ください。

(株式会社ダイヤ書房との資本・業務提携)

当社は、平成29年4月14日開催の取締役会において、株式会社ダイヤ書房（以下「ダイヤ社」という。）との間で、同社を当社の持分法適用会社とすることを含む資本業務提携を行うことを決議し、平成29年4月21日付けで資本業務提携契約を締結しました。また、平成29年4月27日付けで株式を取得しました。

(1)提携先企業の名称及びその事業の内容

提携先企業の名称 株式会社ダイヤ書房

事業の内容 教科書、教材販売、各種検定受付等を中心として、進学情報媒体、進学相談会の運営、催事イベントの企画、卸売など、教育に関する商材の販売

(2)業務提携の内容

- a. 当社の製品である「英検CAT」、「ABLish」、「スーパー英語」等をダイヤ社が強いパイプを持つ高校、専門学校等への販路にのせ、拡販を図る。
- b. ダイヤ社の販売する教材をデジタル化、クラウドで展開するなど、当社の技術、製品等を提供する。
- c. シナジーの効果を高めるため、人材交流を行う。

(3)資本提携の内容

ダイヤ社が行う普通株式の第三者割当を当社が全株引き受けます。

- a. 異動前の所有株式数 - 株（所有割合 - %）
- b. 取得株式数 100株
- c. 取得価額 1億円
- d. 異動後の所有株式数 100株（所有割合 20%）

(注) 取得価額は、当該会社の最終的な純資産等に基づく割当価格であり、妥当性については第三者算定機関による算定結果を参照し決定いたしました。

(SHIELDX株式会社の設立)

当社は、平成29年9月1日開催の取締役会において、ソフトキャンブジャパン株式会社（以下、「SCJ社」）、Venture Bridge Co.,Ltd.（以下、「VB社」）及びチエル株式会社（以下、「当社」）の3社による新会社としてSHIELDX株式会社（以下、「SHIELDX社」）の設立を決議、合意しました。

(1)合併事業会社設立の背景と目的

近年、官公庁・民間企業の情報セキュリティをとりまく環境は、標的型攻撃やサイバー犯罪の横行により、情報漏洩のリスクが増大しています。教育現場においても、ICT化が進む一方で、十分な対策が施されず、情報漏洩が後を絶ちません。また、IoTの普及とともにネットワークへの接続機器が大幅に増加することが予測されており、官民を問わず、情報セキュリティの強靱化が求められています。

このような中、SCJ社、VB社及び当社の3社は、情報セキュリティの新たなソリューションを提供するため、合併事業会社SHIELDX社を設立することで合意いたしました。SCJ社は、当社が日本の学校市場向けに販売しているシステムリカバリソフト「WinKeeper」の開発元である韓国・SOFTCAMP株式会社の日本法人です。VB社は当社のパートナーとして共に授業支援システム及びデジタル教材を開発しております。

今般設立したSHIELDX社は、3社の開発力と販売力を融合し、新たな情報セキュリティのソリューションとしてメール及びファイルの無害化ソフト「SHIELDX」を、学校市場にとどまらずエンタープライズ市場まで幅広く提供することを目的といたします。

(2) 合併事業会社の概要

名称	SHIELDEX株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番24号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 田中 裕士
事業内容	情報セキュリティ製品の企画、開発及び販売
資本金	20百万円
設立年月日	平成29年9月14日
決算期	3月
出資比率	ソフトキャンプジャパン株式会社 :51% Venture Bridge Co.,Ltd. :10% チエル株式会社 :39%

(3) 合併相手先の概要

SCJ社

名称	ソフトキャンプジャパン株式会社	
所在地	東京都品川区東五反田一丁目7番11号A10S五反田アネックス206号	
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 裊 桓国	
事業内容	情報セキュリティ、ドキュメントセキュリティの分野に特化したソフトウェアの企画、開発及び保守等	
資本金	15百万円	
設立年月日	平成29年8月23日	
大株主及び持株比率	SOFTCAMP株式会社（本社大韓民国ソウル特別市） 100%	
上場会社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません
	人的関係	該当事項はありません
	取引関係	一部製品において仕入を行っています

VB社

名称	Venture Bridge Co.,Ltd.	
所在地	大韓民国ソウル特別市グロー区33ギル デジタルロー	
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 金 炯釗	
事業内容	ソフトウェア開発、検証及びコンサルティング	
資本金	5百万円	
設立年月日	平成12年8月14日	
大株主及び持株比率	金 炯釗 100%	
上場会社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません
	人的関係	該当事項はありません
	取引関係	一部製品において共同開発を行っています

(4) 日程

取締役会決議日	平成29年9月1日
契約締結日	平成29年9月1日
合併事業会社設立	平成29年9月14日
合併事業会社営業開始日	平成29年10月2日



(株式会社コラボレーションシステムの株式の取得(子会社化)に関するお知らせ)

当社は、平成29年9月4日開催の取締役会において、当社の持分法適用関連会社である株式会社コラボレーションシステムの株式を追加取得し、連結子会社とする株式譲渡契約の締結を決議いたしました。

詳細については、「第5 経理の状況 注記事項(企業結合等関係)」の項を参照ください。

(ワンビ株式会社の株式の追加取得(持分法適用関連会社化))

当社は、平成29年10月30日開催の取締役会において、平成29年3月に資本業務提携を行ったワンビ株式会社(以下、「ワンビ社」)の株式を追加取得することを決議、合意しました。

なお、本件により、当社が保有するワンビ社の議決権所有割合は48.08%となり、当連結会計年度より、持分法適用関連会社となりました。

## 5 【研究開発活動】

当社の事業の根幹は販売用ソフトウェアの販売にあり、その優位性を持続するため、研究開発を重視しております。具体的には、売上約10%を研究開発、ソフトウェア開発に投資することを基本方針としており、当事業年度において当社が支出した研究開発費の総額は、14,406千円であります。

なお、当社は、学校教育ICT事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (1) 研究開発・製品開発体制

製品の研究開発については、製品開発部が中心になって行っております。製品開発部は正社員7名体制(平成30年3月末現在)で、新製品研究、製品化、既存製品バージョンアップ、及び動作検証を行っております。

### (2) 新製品、新技術等の研究開発活動

#### 研究開発目的

当社の経営理念である「私たちチエルは、子供たちの未来のために、世界中の先生の授業をICTで支えます」に基づいて、研究開発を進めております。具体的には、以下の目的を達成するような研究開発を行っております。

#### (創造)

授業を進めやすくするために、先生に寄り添った製品を研究開発すること。

#### (変化)

常に化する教育業界のニーズを先取りした製品を研究開発すること。

#### (挑戦)

新しい技術に挑戦しシーズを産み出すような製品を研究開発すること。

#### (協働)

パートナーの製品と連携するような製品を研究開発すること。

#### 主要な研究開発課題

##### a 研究開発の基本方針

上記の目的を達成するために、当社の通信技術、画像・音声転送技術を更に研磨するとともに、今後市場動向に沿った新技術に積極的に挑戦し、内外の顧客のニーズに合致した製品を開発できるような技術を効率的に習得することを基本方針としております。また、開発した技術のうち、特異なものについては、特許を出願するようにしております。

##### b 主要研究開発テーマ

#### (タブレット対応)

市場からの要請が強い既存製品のタブレット端末利用に対応するため、当社既存製品を普通教室や教室外で使用することを可能とするプラットフォームの開発・強化に取り組んでおります。

#### (アクティブ・ラーニング対応)

「アクティブ・ラーニング」に適した、タブレット・スマートフォンに対応する語学学修支援・授業支援の製品開発に取り組んでおります。既存製品との連携機能により総合提案を可能とします。

#### (クラウド対応)

クラウドを利用したeラーニングの市場は拡大しており、これに対応して、当社では既にクラウド上で教材を提供する「CHleru.net」を提供中であります。「CHleru.net」上で提供する教材数の増加・機能強化を進め、先生方の学生への教材指定を獲得することにより、教室外での利用促進、新規顧客の取り込み促進に取り組んでおります。

#### (教材開発)

タブレット対応、アクティブ・ラーニング対応、クラウド対応といった、教材を利用するためのプラットフォーム開発に合わせて、デジタル教材について、各プラットフォームや異なる利用環境での利用を可能とするための開発を行い、既存製品の横展開、新教材の開発、教材量産体制の確立に取り組んでおります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の主な設備投資は、研究開発部門における製品開発を中心とする総額222,838千円の投資を実施しました。なお、当社グループは、学校教育ICT事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物 (千円)	機械及び装置 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	ソフトウェア (千円)	合計 (千円)	
本社 (東京都 品川区)	本社事務所	3,306	0	6,028	264,442	273,778	37(19)

- (注) 1. 上記金額に消費税等は含まれておりません。  
 2. 建物は、賃借建物に施した建物附属設備の金額であります。年間賃借料は27,179千円であります。  
 3. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に年間雇用平均人員を外数で記載しております。  
 4. 当社は単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載は行っておりません。  
 5. 現在休止中の主要な設備はありません。

##### (2) 国内子会社

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,879,600	3,879,600	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	3,879,600	3,879,600		

(注) 提出日現在の発行数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

##### a. 第1回新株予約権(平成25年3月19日臨時株主総会決議)

(付与対象者の区分及び人数：当社取締役1名、当社従業員45名)

区分	事業年度末現在 (平成30年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成30年5月31日)
新株予約権の数(個)	255(注)1,2	255(注)1,2
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	15,300(注)1,2,6	15,300(注)1,2,6
新株予約権の行使時の払込金額(円)	167(注)3,6	同左
新株予約権の行使期間	自 平成27年3月21日 至 平成35年3月19日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 167 資本組入額 84 (注)3,6	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要する。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注) 1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、退職等の理由により権利喪失した者に係る新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数を減じた数であります。

2. 新株予約権1個につき目的となる株式数は60株であります。

なお、新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てる。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

3. 新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により1株当たりの行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権発行後時価を下回る価額で新株を発行する場合または自己株式を処分する場合(新株予約権の行使によるものを除く。)は、次の算式により1株当たりの行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たりの払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとする。

4. 新株予約権発行時において当社の取締役または従業員であったものは、新株予約権の行使時においても、当社、当社子会社または関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合として当社の取締役会が認めた場合はこの限りではない。
5. 当社が消滅会社となる合併契約書が承認された場合、または当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案もしくは株式移転の議案につき株主総会で承認された場合には、本新株予約権に係る義務を合併による存続会社または株式交換・株式移転による完全親会社となるものに承継させるものとし、その細目については当該合併、株式交換または株式移転を承認する株主総会決議において定めるものとする。
6. 平成27年11月6日開催の取締役会決議により、平成27年11月24日付で普通株式1株につき普通株式30株の割合で株式分割を行っております。また、平成28年8月22日開催の取締役会決議により、平成28年10月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これらにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

b. 第3回新株予約権(平成26年6月25日定時株主総会決議)

(付与対象者の区分及び人数：当社従業員56名)

区分	事業年度末現在 (平成30年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成30年5月31日)
新株予約権の数(個)	380(注)1, 2	380(注)1, 2
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	22,800(注)1, 2, 6	22,800(注)1, 2, 6
新株予約権の行使時の払込金額(円)	250(注)3, 6	同左
新株予約権の行使期間	自 平成28年7月19日 至 平成36年7月18日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 250 資本組入額 125 (注)3, 6	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要する。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注) 1. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、退職等の理由により権利喪失した者に係る新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数を減じた数であります。

2. 新株予約権1個につき目的となる株式数は60株であります。  
 なお、新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てる。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

3. 新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により1株当たりの行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権発行後時価を下回る価額で新株を発行する場合または自己株式を処分する場合(新株予約権の行使によるものを除く。)は、次の算式により1株当たりの行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たりの払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとする。

4. 新株予約権発行時において当社の従業員であったものは、新株予約権の行使時においても、当社、当社子会社または関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。  
 ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合として当社の取締役会が認めた場合はこの限りではない。
5. 当社が消滅会社となる合併契約書が承認された場合、または当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案もしくは株式移転の議案につき株主総会で承認された場合には、本新株予約権に係る義務を合併による存続会社または株式交換・株式移転による完全親会社となるものに承継させるものとし、その細目については当該合併、株式交換または株式移転を承認する株主総会決議において定めるものとする。
6. 平成27年11月6日開催の取締役会決議により、平成27年11月24日付で普通株式1株につき普通株式30株の割合で株式分割を行っております。また、平成28年8月22日開催の取締役会決議により、平成28年10月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これらにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

c. 第4回新株予約権(平成27年6月23日定時株主総会決議)

(付与対象者の区分及び人数：当社従業員32名)

区分	事業年度末現在 (平成30年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成30年5月31日)
新株予約権の数(個)	365(注)1	365(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	21,900(注)1,5	21,900(注)1,5
新株予約権の行使時の払込金額(円)	284(注)2,5	同左
新株予約権の行使期間	自平成29年6月24日 至平成37年6月23日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 284 資本組入額 142 (注)2,5	同左
新株予約権の行使の条件	(注)3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の承認を要する。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4	同左

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は60株であります。

なお、新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権発行後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により1株当たりの行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権発行後時価を下回る価額で新株を発行する場合または自己株式を処分する場合(新株予約権の行使によるものを除く。)は、次の算式により1株当たりの行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとする。

3. 新株予約権発行時において当社の従業員であったものは、新株予約権の行使時においても、当社、当社子会社または関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。  
ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合として当社の取締役会が認めた場合はこの限りではない。
4. 当社が消滅会社となる合併契約書が承認された場合、または当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案もしくは株式移転の議案につき株主総会で承認された場合には、本新株予約権に係る義務を合併による存続会社または株式交換・株式移転による完全親会社となるものに承継させるものとし、その細目については当該合併、株式交換または株式移転を承認する株主総会決議において定めるものとする。
5. 平成27年11月6日開催の取締役会決議により、平成27年11月24日付で普通株式1株につき普通株式30株の割合で株式分割を行っております。また、平成28年8月22日開催の取締役会決議により、平成28年10月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。これらにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

#### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年11月24日 (注) 1	1,740,000	1,800,000		300,000		
平成28年 3月22日 (注) 2	41,100	1,841,100	6,863	306,863	6,863	6,863
平成28年 5月23日 ~ 平成28年 5月30日 (注) 2	5,700	1,846,800	951	307,815	951	7,815
平成28年 8月 2日 (注) 2	36,150	1,882,950	8,078	315,894	8,078	15,894
平成28年10月 1日 (注) 3	1,882,950	3,765,900		315,894		
平成28年11月 7日 ~ 平成28年12月 1日 (注) 2	46,200	3,812,100	4,903	320,797	4,903	20,797
平成29年 2月 7日 ~ 平成29年 3月13日 (注) 2	6,300	3,818,400	725	321,523	725	21,523
平成29年 6月22日 (注) 2	6,000	3,824,400	750	322,273	750	22,273
平成29年 7月 1日 ~ 平成29年 9月30日 (注) 2	28,200	3,852,600	3,927	326,201	3,927	26,201
平成29年10月 1日 ~ 平成29年12月31日 (注) 2	9,300	3,861,900	1,279	327,480	1,279	27,480
平成30年 1月 1日 ~ 平成30年 3月31日 (注) 2	17,700	3,879,600	2,304	329,785	2,304	29,785

- (注) 1. 普通株式 1株につき普通株式30株の割合で株式分割を行っております。  
 2. 新株予約権(ストックオプション)の権利行使による増加であります。  
 3. 普通株式 1株につき普通株式 2株の割合で株式分割を行っております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年 3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	0	3	21	19	12	3	2,217	2,275	
所有株式数 (単元)	0	1,489	1,587	9,479	358	11	25,862	38,786	1,000
所有株式数 の割合(%)	0.00	3.84	4.09	24.44	0.92	0.03	66.68	100.00	

(注) 自己株式47株は「単元未満株式の状況」に含まれております。



(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式数 の割合(%)
川居 睦	東京都大田区	1,096,000	28.25
アルプスシステムインテグレーション株式会社	東京都大田区雪谷大塚町1番7号	360,000	9.28
株式会社旺文社	東京都新宿区横寺町55番	360,000	9.28
大賀 昭雄	東京都千代田区	120,000	3.09
森 達也	東京都中野区	120,000	3.09
株式会社旺文社キャピタル	東京都新宿区横寺町55番	90,000	2.32
株式会社ダイヤ書房	北海道札幌市東区北二十五条東8丁目2番1号	61,000	1.57
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号	56,000	1.44
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	47,900	1.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	45,000	1.16
計		2,355,900	60.73

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,878,600	38,786	単元株式数は100株
単元未満株式	普通株式 1,000		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,879,600		
総株主の議決権		38,786	

(注) 単元未満株式の欄には、当社所有の自己株式47株が含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成30年5月15日)での決議状況 (取得期間平成30年5月17日～平成30年5月31日)	33,000	50,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式	33,000	47,520
提出日現在の未行使割合(%)	0.0	5.0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの取締役会決議による自己株式の取得による株式数は含まれておりません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	47	71
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他( )				
保有自己株式数	47		33,047	

(注) 有価証券報告書提出日現在の保有株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

## 3 【配当政策】

当社は会社設立以来、企業体質の強化及び継続的な商品開発に備えた資金の確保を優先し、当連結会計年度を含め株主に対する配当を実施しておりません。しかし、株主への利益還元については、当社の重要な経営課題と認識しており、今後財政状態及び経営成績を勘案しつつ、配当の実施を検討する方針であります。

内部留保につきましては、今後の企業体質及び製品開発力の強化のための資金として有効に活用してまいります。

剰余金の配当につきましては年1回、期末配当を行うことを基本としておりますが、定款において毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨定めております。なお、当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当等を行うことができる旨定款に定めております。

#### 4 【株価の推移】

##### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)			3,155	5,840 2,220	2,285
最低(円)			1,863	1,140 1,208	1,220

- (注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)における株価を記載しております。  
2. 当社株式は、平成28年3月19日から東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場しております。それ以前については、該当事項はありません。  
3. 印は、株式分割(平成28年10月1日、1株 2株)による権利落後の株価であります。

##### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	1,691	1,612	1,444	1,552	2,285	1,871
最低(円)	1,531	1,308	1,292	1,365	1,220	1,394

- (注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)における株価を記載しております。

5 【役員 の 状 況】

男性 8名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		川居 睦	昭和37年11月20日	昭和61年4月 タカギエレクトロニクス株式会社入社 平成5年11月 アルプスシステムインテグレーション株式 会社入社 平成11年10月 株式会社旺文社デジタルインスティテュー ト(現当社)取締役 平成17年6月 アルプスシステムインテグレーション株式 会社取締役 平成18年10月 当社代表取締役(現任) 平成29年6月 沖縄ティエル株式会社代表取締役(現任)	(注)3	1,096,000
取締役		前田 喜和	昭和47年8月29日	平成5年4月 株式会社アーテック入社 平成15年4月 アルゴノート株式会社入社 平成15年10月 アルプスシステムインテグレーション株式 会社入社 平成20年3月 アルプスシステムインテグレーション株式 会社から当社へ転籍 平成23年12月 当社製品開発部長 平成28年6月 当社取締役(現任) 平成29年4月 株式会社VERSION2取締役(現任) 平成29年9月 株式会社コラボレーションシステム 取締役(現任) 平成30年4月 当社製品技術部長(現任)	(注)3	28,000
取締役		若松 洋雄	昭和51年6月29日	平成20年9月 当社入社 平成27年10月 当社マネジメントサービス部部長代理 平成29年4月 当社マネジメントサービス部長(現任) 平成29年4月 株式会社VERSION2監査役(現任) 平成29年6月 当社取締役(現任) 平成29年9月 SHIELDDEX株式会社監査役(現任)	(注)3	14,000
取締役		柏田 稔	昭和38年7月25日	昭和60年4月 株式会社SCC入社 平成3年7月 株式会社オネスト入社 平成9年11月 株式会社ウイズ入社 平成18年1月 株式会社コラボレーションシステム創業 代表取締役(現任) 平成29年10月 当社顧問 平成30年4月 当社製品開発部長(現任) 平成30年6月 当社取締役(現任)	(注)3	5,000
取締役		呉 明植	昭和49年7月4日	平成12年11月 司法試験合格 平成12年11月 慶應義塾大学司法研究室 非常勤講師 平成12年12月 伊藤塾司法試験科 講師(現任) 平成23年8月 法学館法律事務所入所(現任) 平成27年6月 当社取締役(現任)	(注)3	600
常勤監査役		加藤 栄政	昭和25年9月17日	昭和48年4月 財団法人日本英語教育協会入社 平成6年4月 株式会社旺文社入社 平成18年10月 当社取締役 平成20年10月 当社へ転籍 平成25年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	100
監査役		小尾 茂	昭和26年11月8日	昭和45年3月 株式会社旺文社入社 平成12年12月 株式会社旺文社常勤監査役 平成18年10月 当社監査役(現任) 平成23年12月 株式会社旺文社顧問	(注)4	100
監査役		本田 真吾	昭和54年6月14日	平成18年11月 司法試験合格 平成19年4月 最高裁判所司法研究所入所 平成20年9月 弁護士登録 レガリスの森法律事務所入所 平成23年2月 法学館法律事務所入所 平成27年6月 当社監査役(現任) 平成29年2月 赤羽根・伊関・本田法律事務所入所(現任)	(注)4	600
計						1,144,400

- (注) 1. 取締役 呉明植は、社外取締役であります。  
 2. 監査役 小尾茂及び本田真吾は、社外監査役であります。  
 3. 取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 4. 当該監査役の任期は、平成27年11月24日開催の臨時株主総会終結の時から、平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、「私たちチエルは、子供たちの未来のために、世界中の先生の授業をICTで支えます」を経営理念としております。

この経営理念のもと、株主、取引先、従業員等のステークホルダーの期待と信頼に応え企業価値を向上させるためには、コーポレート・ガバナンスの構築が必要不可欠であり、経営の健全性・効率性及び透明性を確保すべく、最適な経営管理体制の構築に努めております。

#### 企業統治の体制

当社は、監査役による取締役の意思決定・業務執行の適法性に対する厳正な監査を通じて、経営の透明性と機動的な意思決定に対応できる経営管理体制の維持を図る目的から監査役制度を採用しております。また、会社法に基づく機関として、株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役会及び会計監査人を設置しております。

#### a．取締役会

取締役会は、取締役5名(うち社外取締役1名)で構成され、経営方針等の経営に関する重要事項並びに法令で定められた事項を決定するとともに業務執行状況の監督を行っております。取締役会は、原則として月1回定期的に開催するとともに、必要に応じて随時取締役会を開催し、経営意思決定の迅速化を図っております。

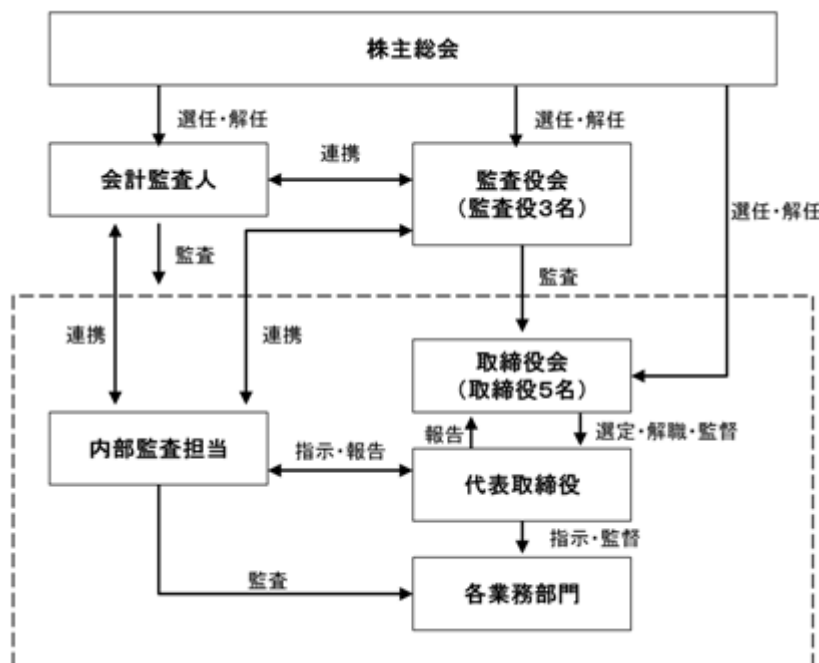
#### b．監査役会

監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成され、そのうち1名は常勤監査役であります。監査役会は原則として月1回開催し、監査状況の確認及び協議を行うほか内部監査担当者や会計監査人とも連携し、随時監査についての報告を求めています。監査役は、取締役会に出席し、取締役の意見聴取や資料の閲覧等を通じて業務監査、会計監査を実施しております。また、常勤監査役においては、取締役会以外の会議にも出席し、取締役の業務執行状況を十分に監査できる体制となっております。

#### c．内部監査担当

代表取締役社長直属の内部監査担当者1名を置き、法令及び社内規程の遵守状況並びに業務活動の効率性などについて、当社各部門に対し内部監査を実施し、代表取締役に結果を報告するとともに被監査部門に対して業務改善に向け具体的に助言・勧告を行っております。

なお、これらの模式図は次のとおりです。



#### 内部統制システムの整備の状況

当社では、会社法及び会社法施行規則に基づき、業務の適正性を確保するための体制整備の基本方針として、内部統制システム整備の基本方針を定め、以下のような体制のもと運用しております。

- a 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - (a) 「コンプライアンス規程」等の諸規程を整備し、取締役及び従業員に対してコンプライアンス教育を実施し、取締役及び従業員が法令、定款、社内諸規程等に則った職務執行を行うことを推進する。
  - (b) 取締役会は、会社法をはじめとする諸法令に基づく適法性及び経営判断に基づく妥当性を満たすように、取締役の職務の執行を監督し業務執行の決定を行う。
  - (c) 監査役は、法令に定める権限を行使し、取締役の職務の執行を監査する。
  - (d) 社長直属の内部監査担当者を置き、「内部監査規程」に従い各部門の業務執行及びコンプライアンス等の状況等につき定期的に監査を実施し、結果を代表取締役に報告する。
  
- b 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
  - (a) 「文書管理規程」を定め、取締役の職務の執行に係る情報を含む重要文書は、当該規程の定めるところにより保存・管理する。
  - (b) 取締役及び監査役がこれらの重要文書の閲覧を要請した場合は、速やかに閲覧可能なように管理する。
  
- c 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - (a) 取締役会は、コンプライアンス、個人情報等様々なリスクに対処するため諸規程を整備し、周知徹底を図るとともに必要に応じて定期的に見直す。
  - (b) 内部監査担当は、組織横断的に実施される内部監査により認識された重要なリスクを代表取締役に報告する。
  - (c) 取締役は、取締役会に対して業務執行に係る重要な報告を定期的に行い、取締役会では重要な問題点の把握及び対応策の立案に努める。
  
- d 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  - (a) 取締役会は、経営計画及び予算を策定し、各取締役及び各部門は、その達成に向けて職務を執行し、取締役会はその実績を管理する。
  - (b) 「組織・職務権限規程」、「職務分掌規程」により、必要な範囲で権限を委譲し、責任の明確化を図ることで迅速性及び効率性を確保する。
  - (c) 取締役会は月1回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、機動的な意思決定に努める。
  
- e 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
  - (a) 監査役は、マネジメントサービス部の使用人(従業員)に対して監査業務に必要な指示をすることができる。
  - (b) 指示を受けた従業員は、その指示について取締役の指揮命令は受けないものとする。
  
- f 監査役がその職務を補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
  - (a) 取締役及び使用人は、補助使用人の業務が円滑に行われるよう、監査環境の整備に協力する。
  - (b) 監査役がその職務を補助すべき使用人は、必要に応じて弁護士、公認会計士等から監査業務に関する助言を受けることができる。
  
- g 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制並びに報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制
  - (a) 取締役及び従業員は、会社に著しい損害を与える事実が発生し、または発生する恐れがあるとき、あるいは、取締役及び従業員による違法または不正行為を発見したときは、法令に従い、直ちに監査役に報告するものとする。
  - (b) 監査役は、重要な意思決定のプロセスや業務の執行状況を把握するため、取締役会等重要な会議に出席し、必要に応じ重要文書を閲覧し、取締役及び従業員に対してその説明を求めることができる。

- (c) 取締役及び従業員は、監査役の求めに応じて速やかに業務執行の状況を報告するものとする。
  - (d) 監査役へ当該報告を行ったことを理由として、当該報告者に対し不利な取り扱いを行うことを禁止する。  
また、当該行為が禁止事項であることを、取締役及び使用人に対し周知徹底する。
- h 監査役職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制
- (a) 監査役がその職務の執行にあたり生じた費用の前払いまたは償還等の請求をしたときは、当該監査役職務の執行に必要でないと認められる場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
  - (b) 監査役は、代表取締役社長及び内部監査担当者と定期的に意見交換を行うものとする。
  - (c) 監査役は、定期的に会計監査人から監査の状況報告を受けることにより、監査の有効性及び効率性を高める。
  - (d) 監査役が必要と認めるときは、弁護士や公認会計士等の専門家の意見を聴取できるようにする。
- i 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況
- (a) 反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨むとともに、一切の関係を遮断する。
  - (b) 取引先が反社会的勢力と関わる個人、企業、団体等であることが判明した場合には取引を解消する。
  - (c) マネジメントサービス部を反社会的勢力対応部署と位置づけ、情報の一元管理・蓄積を図るとともに、公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会との連携、情報収集を図れる体制を整備する。

#### リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、法令はもとより、社内規程、企業倫理、社会規範を遵守尊重することを基本とし、監査役監査、内部監査によりその遵守状況を確認しております。また、会社に重大な損失をもたらす可能性のあるリスク、事故等に関しては、リスク管理規程を整備し周知徹底することで、リスクの影響を最小限に抑える体制を整備しております。

この他、取締役会により選任された常勤取締役を統括責任者とするコンプライアンス委員会を設置し、法令遵守意識を取締役及び使用人に浸透させるため、定期的に教育研修を実施するとともに、使用人が察知した法令違反行為について、コンプライアンス統括責任者・監査役等に直接通報可能な内部通報制度を導入し、法令遵守を実効性あるものとしております。

#### 子会社の業務の適性を確保するための体制整備の状況

関係会社の管理については、「関係会社管理規程」に基づき社長室が総括し、緊密な連携のもとに関係会社に助言・指導を行っております。

関係会社には必要に応じて取締役又は監査役として、当社の取締役又は使用人を派遣し、業務執行の適正性を監督するとともに、重要事項に関しては当社へ事前の仰裁又は報告が行われる体制を構築しております。また、内部監査担当が、子会社における内部監査を実施し、業務の適正を確保しております。

#### 内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査担当者1名を選任しております。内部監査担当者は、当社の業務部門の監査を、内部監査規程及び年度計画に基づいて行い、会社の業務運営が法令、社内規程、経営方針等に従って、適切かつ有効に執行されているかを監査しております。

また、監査の結果報告を代表取締役・監査役等に行い、各部門へ業務改善案等の助言も行っております。

監査役については、3名(うち常勤監査役1名)を選任しております。監査役は取締役会その他の重要な会議へ出席し、経営の監視機能強化を図るとともに、重要な決裁書類の閲覧をし、取締役の職務執行及び意思決定についての適正性を監査しております。

なお、内部監査担当者、監査役及び会計監査人は、三様監査連絡会を年に4回定期的を開催するほか、適時に協議、意見交換を行い、連携を行う体制になっております。

#### 会計監査の状況

当社は、監査契約を太陽有限責任監査法人と締結しております。同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行役員と当社との間には、特別な利害関係はありません。なお、会計監査業務を執行した公認会計士

は、柏木忠、岩崎剛の2名であり、当社に対する継続関与年数はいずれも7年以内であります。当社の監査業務に係る補助者は公認会計士6名、その他12名であります。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社は、社外取締役1名及び社外監査役2名を選任しております。当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針を明確に定めてはおりませんが、その選任においては、経歴や当社との関係を踏まえて、個別に判断しております。

社外取締役の呉明植氏は、弁護士としての長年の経験と専門知識を有しており、経営の監視において経営陣からの独立性を十分に確保できると判断したため、社外取締役として選任しております。

社外監査役の小尾茂氏は、当社社外監査役としての実績があり事業内容に精通している一方、他社での監査役としての幅広い経験により、社外監査役として経営の監視や適切な助言を期待できることから、選任しております。

また、社外監査役の本田真吾氏は、弁護士としての長年の経験と実績を通じて得られた専門知識が、当社の監査体制の強化に資するものと判断したため、社外監査役として選任しております。

なお、いずれも当社との間に、人的関係、資本的关系、又は取引関係その他の利害関係はありません。

#### 役員報酬等

##### イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を 除く。)	54,725	47,184	-	2,841	4,700	4
社外取締役	1,900	1,800	-	-	100	1
監査役 (社外監査役を 除く。)	6,400	6,000	-	-	400	1
社外監査役	6,300	6,000	-	-	300	2

(注) 1 「賞与」欄に記載の金額は、当事業年度における役員賞与引当金繰入額であります。

2 「退職慰労金」に記載の金額は、当事業年度における役員退職慰労引当金繰入額であります。

##### ロ．提出会社の役員ごとの報酬等の総額

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

##### 八．使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

##### 二．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、取締役の基本報酬については、株主総会で決議された支払限度額を上限として、在任期間における功績や企業業績を勘案し、報酬額を決定しております。監査役の基本報酬については、株主総会で決議された支払限度額を上限として、監査役の協議により、報酬額を決定しております。

#### 株式の保有状況

##### イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 2銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 36,896千円

##### 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。



#### 責任限定契約の内容の概要

当社定款において、取締役(業務執行取締役等であるものを除く)及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、法令が定める額を限度として責任を限定する契約を締結することができる旨を定めており、本書提出日現在、当社と社外取締役1名及び社外監査役2名との間で、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として、責任限定契約を締結しております。

#### 取締役の選解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別要件決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

#### 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

当社は、株主への機動的な利益還元ができるよう、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定めることとする旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	19,000		22,500	
連結子会社				
計	19,000		22,500	

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査に係る所要日数、従事する人員等を勘案して決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、太陽有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、監査法人等が主催するセミナー等に参加しております。また、今後は公益財団法人財務会計基準機構へ加入することにより、同法人が開催するセミナーの活用も考えております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	952,009	607,264
売掛金	578,097	653,425
有価証券	-	270
商品	37,719	38,570
貯蔵品	2,737	2,518
繰延税金資産	18,416	15,629
その他	208,152	164,588
流動資産合計	1,797,132	1,482,266
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,742	14,907
減価償却累計額	7,738	8,927
建物及び構築物（純額）	4,004	5,979
機械装置及び運搬具	440	9,481
減価償却累計額	421	7,617
機械装置及び運搬具（純額）	18	1,864
工具、器具及び備品	38,870	50,721
減価償却累計額	30,472	38,665
工具、器具及び備品（純額）	8,397	12,055
その他	-	473
有形固定資産合計	12,420	20,373
無形固定資産		
ソフトウェア	211,356	267,450
ソフトウェア仮勘定	101,441	152,639
のれん	24,676	164,737
その他	0	138
無形固定資産合計	337,475	584,966
投資その他の資産		
投資有価証券	58,249	36,896
関係会社株式	<sup>1</sup> 3,888	<sup>1</sup> 236,544
繰延税金資産	11,494	9,685
その他	68,127	71,459
投資その他の資産合計	141,759	354,586
固定資産合計	491,656	959,925
資産合計	2,288,788	2,442,192

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	226,471	117,202
短期借入金	-	12,400
未払法人税等	42,688	29,990
前受金	476,154	480,723
賞与引当金	36,725	34,468
役員賞与引当金	1,647	2,292
その他	104,182	97,918
流動負債合計	887,869	774,995
固定負債		
長期借入金	-	81,064
退職給付に係る負債	19,706	24,873
役員退職慰労引当金	45,700	40,300
その他	-	5,068
固定負債合計	65,406	151,305
負債合計	953,276	926,301
純資産の部		
株主資本		
資本金	321,523	329,785
資本剰余金	110,837	119,099
利益剰余金	903,151	1,087,077
自己株式	-	20,071
株主資本合計	1,335,511	1,515,890
純資産合計	1,335,511	1,515,890
負債純資産合計	2,288,788	2,442,192

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
売上高	1,947,463	2,005,599
売上原価	1,001,378	888,713
売上総利益	946,085	1,116,885
販売費及び一般管理費	1,2 739,603	1,2 915,801
営業利益	206,481	201,084
営業外収益		
受取利息	80	92
受取配当金	100	1,042
持分法による投資利益	2,488	36,336
受取保険金	-	15,003
保険解約返戻金	15,253	-
その他	1,793	3,018
営業外収益合計	19,715	55,493
営業外費用		
支払利息	-	1,786
為替差損	209	125
その他	156	1,060
営業外費用合計	366	2,972
経常利益	225,831	253,604
特別損失		
社葬費用	4,891	-
固定資産除却損	3 2	3 0
事務所移転費用	-	4,120
特別損失合計	4,894	4,120
税金等調整前当期純利益	220,937	249,484
法人税、住民税及び事業税	67,236	60,962
法人税等調整額	3,617	4,595
法人税等合計	63,619	65,558
当期純利益	157,317	183,926
親会社株主に帰属する当期純利益	157,317	183,926

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	157,317	183,926
包括利益	157,317	183,926
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	157,317	183,926
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	306,863	96,177	745,834	-	1,148,875	1,148,875
当期変動額						
新株の発行（新株予約権の行使）	14,659	14,659			29,319	29,319
親会社株主に帰属する当期純利益			157,317		157,317	157,317
自己株式の取得					-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						-
当期変動額合計	14,659	14,659	157,317	-	186,636	186,636
当期末残高	321,523	110,837	903,151	-	1,335,511	1,335,511

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	321,523	110,837	903,151	-	1,335,511	1,335,511
当期変動額						
新株の発行（新株予約権の行使）	8,262	8,262			16,524	16,524
親会社株主に帰属する当期純利益			183,926		183,926	183,926
自己株式の取得				20,071	20,071	20,071
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						-
当期変動額合計	8,262	8,262	183,926	20,071	180,378	180,378
当期末残高	329,785	119,099	1,087,077	20,071	1,515,890	1,515,890



## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	220,937	249,484
減価償却費	116,091	156,180
のれん償却額	-	16,679
賞与引当金の増減額(は減少)	888	2,617
役員賞与引当金の増減額(は減少)	714	645
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3,272	5,166
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4,200	5,399
受取利息及び受取配当金	180	1,134
支払利息	-	1,786
持分法による投資損益(は益)	2,488	36,336
売上債権の増減額(は増加)	1,806	56,864
たな卸資産の増減額(は増加)	21,001	631
仕入債務の増減額(は減少)	45,289	113,054
保険解約返戻金	15,253	-
前払金の増減額(は増加)	3,478	44,964
前受金の増減額(は減少)	11,060	31,357
その他	29,788	11,949
小計	345,132	215,561
利息及び配当金の受取額	252	1,482
利息の支払額	-	1,763
法人税等の支払額	64,114	73,841
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>281,270</b>	<b>141,438</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
保険積立金の解約による収入	87,333	-
保険積立金の積立による支出	101,659	-
定期預金の預入による支出	30,000	180
定期預金の払戻による収入	170,000	40,360
有形固定資産の取得による支出	5,162	13,167
無形固定資産の取得による支出	218,409	259,036
投資有価証券の取得による支出	51,696	-
貸付けによる支出	20,000	80,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 5,525	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	2 56,086
関係会社株式の取得による支出	1,400	202,840
その他	730	3,238
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>177,249</b>	<b>462,017</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	87,793
長期借入金の返済による支出	-	88,233
株式の発行による収入	29,319	16,524
自己株式の取得による支出	-	71
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>29,319</b>	<b>16,012</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	133,339	304,565
現金及び現金同等物の期首残高	598,249	731,589
現金及び現金同等物の期末残高	1 731,589	1 427,024

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

4社

連結子会社の名称

沖縄チエル株式会社、株式会社東大英数理教室、株式会社VERSION2、株式会社コラボレーションシステム

株式会社VERSION2については、平成29年4月の株式の取得に伴い、当連結会計年度より連結子会社に含めております。

株式会社コラボレーションシステムについては、平成29年9月の株式の取得に伴い、当連結会計年度より連結子会社に含めております。

(2) 主要な非連結子会社名

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数

3社

持分法を適用した関連会社の名称

株式会社ダイヤ書房、SHIELDEX株式会社、ワンビ株式会社

株式会社ダイヤ書房については、平成29年4月の株式の取得に伴い、当連結会計年度より持分法適用の範囲に含めております。

SHIELDEX株式会社については、平成29年9月の設立に伴い、当連結会計年度より持分法適用の範囲に含めております。

ワンビ株式会社については、平成29年10月の株式の取得に伴い、当連結会計年度より持分法適用の範囲に含めております。

(2) 持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社等の名称

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

株式会社東大英数理教室の決算日は8月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては2月28日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

株式会社VERSION2は、決算日を3月31日に変更し、連結決算日と同一となっております。なお、当連結会計年度における会計期間は11か月となっております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

商品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月以降に取得した建物(建物附属設備は除く)及び平成28年4月以降に取得する建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～15年
機械及び装置	9年
工具、器具及び備品	3年～15年

無形固定資産

市場販売目的のソフトウェアについては見込販売数量に基づく償却額と残存見込販売有効期間(3年以内)に基づく均等償却額とのいずれか大きい金額を計上する方法、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、会社が算定した当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度未要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、原則として10年間の定額法により償却をおこなっております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
関係会社株式	3,888千円	223,640千円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

当連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高		
差引額	500,000	500,000

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給料及び手当	209,405 千円	258,207 千円
賞与引当金繰入額	52,921	50,703
役員賞与引当金繰入額	2,434	2,841
退職給付費用	6,223	8,140
役員退職慰労引当金繰入額	4,200	5,500
支払手数料	78,902	100,081

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
一般管理費	33,393千円	14,406千円
当期製造費用	-	-
計	33,393	14,406

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	2千円	0千円
計	2	0

(連結包括利益計算書関係)

該当事項はありません。

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式 (注) 1, 2	1,841,100	1,977,300	-	3,818,400
合計	1,841,100	1,977,300	-	3,818,400
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

(注) 1 平成28年8月22日開催の取締役会決議により、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。当該株式分割により、普通株式の発行済株式総数が1,841,100株増加しております。

2 普通株式の発行済株式総数の増加136,200株は、新株予約権の行使によるものであります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式 (注) 1	3,818,400	61,200	-	3,879,600
合計	3,818,400	61,200	-	3,879,600
自己株式				
普通株式 (注) 2	-	12,247	-	12,247
合計	-	12,247	-	12,247

(注) 1 . 普通株式の発行済株式総数の増加61,200株は、新株予約権の行使によるものであります。

2 . 普通株式の自己株式数の増加12,247株は、単元未満株式の買取りによる増加47株、持分法適用関連会社が取得した自己株式(当社株式)の当社帰属分12,200株であります。

2 . 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 . 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金	952,009千円	607,264千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	220,420	180,240
現金及び現金同等物	731,589	427,024

- 2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

株式の取得により新たに株式会社東大英数理教室を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社東大英数理教室株式の取得価額と株式会社東大英数理教室取得のための支出との関係は次のとおりです。

流動資産	6,148千円
固定資産	1,160
のれん	24,676
流動負債	21,985
株式の取得価額	10,000
現金及び現金同等物	4,474
差引：取得のための支出	5,525

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

株式の取得により新たに株式会社VERSION2を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社VERSION2株式の取得価額と株式会社VERSION2取得による収入との関係は次のとおりです。

流動資産	66,327千円
固定資産	4,221
のれん	147,391
流動負債	78,232
固定負債	139,421
株式の取得価額	285
前期以前に取得済み株式の取得価額	283
現金及び現金同等物	46,887
差引：取得による収入	46,885

株式の取得により新たに株式会社コラボレーションシステムを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社コラボレーションシステム株式の取得価額と株式会社コラボレーションシステム取得による収入との関係は次のとおりです。

流動資産	40,630千円
固定資産	717
のれん	9,348
流動負債	15,696
株式の取得価額	35,000
前期以前に取得済み株式の取得価額	7,000
現金及び現金同等物	37,200
差引：取得による収入	9,200

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資及び短期的な運転資金は原則として自己資金で賄っており、必要に応じ金融機関からの借入による調達をおこなう方針であります。一時的な余資につきましては、安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券のうち、株式は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、非上場株式においては発行企業体の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金（短期）及び設備投資（長期）に係る資金調達を目的としたものであります。これらは、流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、クレジット会社以外の顧客への売上債権が発生した場合には、顧客ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、主な顧客の信用状況を把握する体制をとっております。

市場リスクの管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、営業債務等について、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	952,009	952,009	
(2) 売掛金	578,097	578,097	
資産計	1,530,107	1,530,107	
(1) 買掛金	226,471	226,471	
負債計	226,471	226,471	



当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	607,264	607,264	
(2) 売掛金	653,425	653,425	
資産計	1,260,689	1,260,689	
(1) 買掛金	117,202	117,202	
(2) 短期借入金	12,400	12,400	
(3) 長期借入金	81,064	81,064	
負債計	210,666	210,666	

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負 債

(1) 買掛金及び(2) 短期借入金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらの時価は、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式	62,138	273,440

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
 前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	952,009			
受取手形及び売掛金	578,097			
合計	1,530,107			

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	607,264			
受取手形及び売掛金	653,425			
合計	1,260,669			

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
 前連結会計年度(平成29年3月31日)  
 該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)
短期借入金	12,400				
長期借入金	49,804	12,204	11,004	6,404	1,648
合計	62,204	12,204	11,004	6,404	1,648

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

投資有価証券及び関係会社株式(連結貸借対照表計上額 62,138千円)については、すべて市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載を省略しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

投資有価証券及び関係会社株式(連結貸借対照表計上額 273,440千円)については、すべて市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載を省略しております。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式			
債権			
その他	355,654		
合計	355,654		

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しており、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	16,434	19,706
退職給付費用	8,068	9,463
退職給付の支払額	4,795	4,297
制度への拠出額		
退職給付に係る負債の期末残高	19,706	24,873

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
積立型制度の退職給付債務		
年金資産		
非積立型制度の退職給付債務	19,706	24,873
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	19,706	24,873
退職給付に係る負債	19,706	24,873
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	19,706	24,873

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前連結会計年度	8,068千円	当連結会計年度	9,463千円
----------------	---------	---------	---------	---------

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名  
該当事項はありません。
2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況
  - (1) スtock・オプションの内容

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第3回ストック・オプション	第4回ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 1名 当社従業員 45名	当社取締役 2名	当社従業員 56名	当社従業員 32名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1、2	普通株式 180,000株	普通株式 24,000株	普通株式 114,000株	普通株式 59,700株
付与日	平成25年3月20日	平成26年7月18日	平成26年7月18日	平成27年6月23日
権利確定条件	(注)3	(注)3	(注)3	(注)3
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間(注)4	自平成27年3月21日 至平成35年3月19日	自平成28年7月19日 至平成36年7月18日	自平成28年7月19日 至平成36年7月18日	自平成29年6月24日 至平成37年6月23日

- (注) 1. 株式数に換算して記載しております。
2. 平成27年11月24日付株式分割(1株につき30株の割合)及び平成28年10月1日付株式分割(1株につき2株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。
3. 新株予約権発行時において当社の取締役、監査役または従業員であったものは、新株予約権の行使時においても、当社、当社子会社または関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合として当社の取締役会が認めた場合はこの限りではない。
4. 新株予約権者は、当社株式が日本国内の証券取引所に上場された日及び権利行使期間の開始日のいずれか遅い方の日以後において新株予約権を行使することができる。

- (2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成30年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第3回ストック・オプション	第4回ストック・オプション
権利確定前 (株)				
前事業年度末				57,900
付与				
失効				
権利確定				57,900
未確定残				
権利確定後 (株)				
前事業年度末	15,300	6,000	42,000	
権利確定				57,900
権利行使		6,000	19,200	36,000
失効				
未行使残	15,300	0	22,800	21,900

- (注) 平成27年11月24日付株式分割(1株につき30株の割合)及び平成28年10月1日付株式分割(1株につき2株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第1回ストック・オプション	第2回ストック・オプション	第3回ストック・オプション	第4回ストック・オプション
権利行使価格 (円)	167	250	250	284
行使時平均株価 (円)		1,799	1,520	1,520
付与日における公正な評価単価 (円)				

(注) 平成27年11月24日付株式分割(1株につき30株の割合)及び平成28年10月1日付株式分割(1株につき2株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

3. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

当社はStock・オプション付与日において未公開企業であるため、純資産方式により算出した価額を総合的に勘案して算定した評価額に基づく単位当たりの本源的価値によっております。

4. Stock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. Stock・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたStock・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

- |  |      |
|--|------|
| (1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額                            | - 千円 |
| (2) 当連結会計年度において権利行使されたStock・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額 | - 千円 |

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産	1,832千円	1,098千円
未払事業税	3,557	2,202
賞与引当金	13,025	12,329
役員退職慰労引当金	14,019	12,341
投資有価証券評価損 敷金	525	525
2,894	2,894	
退職給付に係る負債	6,050	7,633
減価償却超過額	2,081	1,933
その他	508	802
繰延税金資産小計	44,497	41,757
評価性引当額	14,585	16,443
繰延税金資産合計	29,911	25,314

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	18,416千円	15,629千円
固定資産 - 繰延税金資産	11,494	9,685

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7%	1.4%
住民税均等割	1.2%	1.2%
税額控除	3.2%	0.4%
評価性引当額の変動	0.7%	0.3%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.1%	0.0%
のれん償却額	-	2.1%
持分法投資損益	-	4.5%
子会社税率差異の影響等	-	3.9%
その他	0.0%	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.8%	26.2%

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 株式会社 VERSION2の株式取得による子会社化

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社 VERSION2

事業の内容 ブレンデッドLMS「Glexa」の企画、開発及び販売、オープンソースシステムの構築・運用・開発等

企業結合を行った主な理由

当社の講義支援分野の製品とVERSION2社の「Glexa」及びその関連システムの連携強化、またVERSION2社のもつオープンソースシステムの構築・運用ノウハウが当社にとってはさらなる製品・サービスの強化につながり、またVERSION2社にとっては、効率的な新規顧客の開拓につながるもので、両社の課題解決において非常に有効なものと判断されたため。

企業結合日

平成29年4月21日

企業結合の法的形式

現金を対価とした株式取得

結合後企業の名称

結合後の企業の名称に変更はありません。

取得した議決権比率

100.00%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成29年5月1日から平成30年3月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,860円
取得原価		1,860円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

該当事項はありません。

(5) 発生したのれんの金額、発生要因、償却方法及び償却期間

発生したのれんの金額

147,391千円

発生要因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	66,327千円
固定資産	4,221千円
資産合計	70,548千円

流動負債 78,232千円



固定負債	139,421千円
負債合計	217,654千円

(7)企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法  
金額的重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## 2. 株式会社コラボレーションシステムの株式取得による子会社化

### (1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社コラボレーションシステム

事業の内容 「クラスビュー」「ロストガード」などの学校におけるシステム運用・監視などのパッケージソフトの開発及び販売

企業結合を行った主な理由

当社グループの高校・大学市場向けソリューションの強化

企業結合日

平成29年9月8日

企業結合の法的形式

現金を対価とした株式取得

結合後企業の名称

結合後の企業の名称に変更はありません。

取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 20.00%

企業結合日に追加取得した議決権比率 80.00%

取得後の議決権比率 100.00%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

### (2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成29年7月1日から平成30年3月31日まで

なお、平成29年1月1日から平成29年6月30日までの業績を持分法による投資損益として計上しております。

### (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	35,000千円
取得原価		35,000千円

### (4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

該当事項はありません。

### (5) 発生したのれんの金額、発生要因、償却方法及び償却期間

発生したのれん金額

9,348千円

発生要因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

### (6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	40,630千円
固定資産	717千円
資産合計	41,348千円
<hr/>	
流動負債	15,696千円
負債合計	15,696千円

(7)企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法  
金額的重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

当社グループは、本社オフィスの建物賃借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しております。なお、賃借契約に関連する敷金が資産に計上されているため、当該資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もり、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上する方法によって会計処理をしております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業は、単一セグメントであることから記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループの事業は、単一セグメントであることから記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループの事業は、単一セグメントであることから記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社グループは、学校教育ICT事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。なお、当連結会計年度ののれんの償却額はなく、未償却残高は24,676千円となっております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当社グループは、学校教育ICT事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。なお、当連結会計年度ののれんの償却額は16,679千円、未償却残高は164,737千円となっております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等  
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等  
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割 合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (千円)
役員	森谷 和浩			当社元取締役 副社長	(被所有) 直接 4.2		ストックオ プシヨンの 行使	11 (60千株)		

(注) 平成25年3月19日および平成26年6月25日に開催された取締役会の決議に基づき付与されたストックオプションの当連結会計年度における権利行使を記載しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	349.76円	391.97円
1株当たり当期純利益金額	41.88円	47.93円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	40.77円	46.95円

- (注) 1. 平成28年10月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っているため、平成29年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	157,317	183,926
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	157,317	183,926
普通株式の期中平均株式数(株)	3,756,622	3,837,295
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	101,673	79,901
(うち新株予約権)(株)	(101,673)	(79,901)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要		

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	1,335,511	1,515,890
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,335,511	1,515,890
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	3,818,400	3,867,353

(重要な後発事象)

自己株式の取得

当社は、平成30年5月15日開催の取締役会において、下記の通り、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について協議しました。

(1)自己株式の取得を行う理由

資本効率の向上を通じて株主への利益還元を図るため、また経営環境の変化に柔軟に対応した、機動的な資本政策の遂行を可能にするため

(2)自己株式取得に関する取締役会の決議内容

取得する株式の種類

当社普通株式

取得する株式の総数

33,000株(上限)

取得する期間

平成30年5月17日～平成30年5月31日

取得価額の総額

50,000千円(上限)

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	12,400	1.74	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	49,804	2.07	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	-	31,260	2.16	平成32年12月5日～ 平成34年7月5日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	
その他有利子負債	-	-	-	-
計	-	93,464	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	12,204	11,004	6,404	1,648

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	215,438	967,364	1,296,085	2,005,599
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 又は四半期純損失金 額( ) (千円)	57,540	120,040	81,285	249,484
親会社株主に帰属す る四半期(当期)純 利益金額又は四半期 純損失金額( ) (千円)	14,790	101,783	72,749	183,926
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 又は四半期純損失金 額( ) (円)	3.87	26.60	18.98	47.93

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純 利益金額又は1株当 たり四半期純損失金 額( ) (円)	3.87	30.40	7.55	28.87



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	859,569	467,346
売掛金	2 561,094	2 561,248
商品	37,719	38,570
貯蔵品	2,737	2,518
前渡金	103,833	122,614
前払費用	12,439	12,259
繰延税金資産	16,150	14,368
その他	93,479	64,290
流動資産合計	1,687,022	1,283,216
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,742	11,742
減価償却累計額	7,738	8,435
建物（純額）	4,004	3,306
機械及び装置	440	440
減価償却累計額	421	439
機械及び装置（純額）	18	0
工具、器具及び備品	38,870	45,194
減価償却累計額	30,472	35,832
工具、器具及び備品（純額）	8,397	9,361
有形固定資産合計	12,420	12,667
無形固定資産		
ソフトウェア	211,356	267,450
ソフトウェア仮勘定	101,441	119,954
その他	0	0
無形固定資産合計	312,798	387,404
投資その他の資産		
投資有価証券	57,979	36,896
関係会社株式	21,532	273,458
出資金	10	10
長期貸付金	-	110,000
長期前払費用	158	12
繰延税金資産	11,260	9,317
その他	66,666	66,935
投資その他の資産合計	157,607	496,629
固定資産合計	482,826	896,702
資産合計	2,169,849	2,179,918

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2 211,979	2 115,509
未払金	47,377	47,505
未払費用	9,126	12,925
未払法人税等	27,338	26,871
未払消費税等	15,055	9,787
前受金	448,073	443,226
預り金	3,792	7,466
賞与引当金	34,095	31,288
役員賞与引当金	1,647	2,292
流動負債合計	798,486	696,874
固定負債		
退職給付引当金	18,992	24,111
役員退職慰労引当金	45,700	40,300
固定負債合計	64,692	64,411
負債合計	863,178	761,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	321,523	329,785
資本剰余金		
資本準備金	21,523	29,785
その他資本剰余金	89,314	89,314
資本剰余金合計	110,837	119,099
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	874,309	969,820
利益剰余金合計	874,309	969,820
自己株式	-	71
株主資本合計	1,306,670	1,418,633
純資産合計	1,306,670	1,418,633
負債純資産合計	2,169,849	2,179,918

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	1,758,573	1,548,075
売上原価	887,400	721,518
売上総利益	871,173	826,557
販売費及び一般管理費		
役員報酬	65,621	61,074
給料及び手当	195,177	194,937
賞与引当金繰入額	49,533	37,778
役員賞与引当金繰入額	2,434	2,841
退職給付費用	6,000	7,575
役員退職慰労引当金繰入額	4,200	5,500
旅費及び交通費	55,319	56,370
減価償却費	6,068	4,885
支払手数料	78,557	94,996
研究開発費	33,393	14,396
その他	208,399	217,614
販売費及び一般管理費合計	704,705	697,971
営業利益	166,468	128,585
営業外収益		
受取利息	80	2,039
有価証券利息	0	-
受取配当金	100	1,355
受取保険金	-	15,003
助成金収入	1,420	-
保険解約返戻金	15,253	-
その他	1,272	654
営業外収益合計	18,126	19,052
営業外費用		
為替差損	209	125
その他	156	-
営業外費用合計	366	125
経常利益	184,229	147,511
特別損失		
社葬費用	4,891	-
固定資産除却損	1 2	1 0
特別損失合計	4,894	0
税引前当期純利益	179,335	147,511
法人税、住民税及び事業税	51,976	48,276
法人税等調整額	1,117	3,725
法人税等合計	50,859	52,001
当期純利益	128,475	95,510

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	1	125,954	26.7	150,722	28.0
経費		343,836	73.3	387,844	72.0
当期総製造費用		469,791	100.0	538,567	100.0
仕掛品期首たな卸高		2,360			
仕掛品期末たな卸高					
他勘定振替高	2	235,151		237,160	
当期製品製造原価		236,999		301,406	
商品期首たな卸高		57,733		37,719	
当期商品仕入高		630,385		420,962	
合計		688,119		458,681	
商品期末たな卸高		37,719		38,570	
売上原価		887,400		721,518	

(注) 1. 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
支払手数料(千円)	207,380	209,706
減価償却費(千円)	110,023	149,582

2. 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
研究開発費(千円)	32,829	14,321
ソフトウェア仮勘定(千円)	202,321	222,838
計	235,151	237,160

(原価計算の方法)

個別原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	306,863	6,863	89,314	96,177	745,834	745,834	-	1,148,875	1,148,875
当期変動額									
新株の発行（新株予約権の行使）	14,659	14,659		14,659				29,319	29,319
当期純利益					128,475	128,475		128,475	128,475
自己株式の取得								-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									-
当期変動額合計	14,659	14,659	-	14,659	128,475	128,475	-	157,794	157,794
当期末残高	321,523	21,523	89,314	110,837	874,309	874,309	-	1,306,670	1,306,670

当事業年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	321,523	21,523	89,314	110,837	874,309	874,309	-	1,306,670	1,306,670
当期変動額									
新株の発行（新株予約権の行使）	8,262	8,262		8,262				16,524	16,524
当期純利益					95,510	95,510		95,510	95,510
自己株式の取得							71	71	71
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									-
当期変動額合計	8,262	8,262	-	8,262	95,510	95,510	71	111,962	111,962
当期末残高	329,785	29,785	89,314	119,099	969,820	969,820	71	1,418,633	1,418,633

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1．有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### (2) その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### 2．たな卸資産の評価基準及び評価方法

##### 商品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

#### 3．固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月以降に取得した建物(建物附属設備は除く)及び平成28年4月以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3年～15年

機械及び装置 9年

工具、器具及び備品 3年～15年

##### (2) 無形固定資産

市場販売目的のソフトウェアについては見込販売数量に基づく償却額と残存見込販売有効期間(3年以内)に基づく均等償却額とのいずれか大きい金額を計上する方法、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

#### 4．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

#### 5．引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

##### (3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、会社が算定した当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

##### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

##### (5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高		-
差引額	500,000	500,000

2 関係会社に対する金銭債権または債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権または金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
売掛金	4,460千円	7,226千円
立替金	971千円	1,033千円
買掛金	-千円	32,888千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引以外の取引による取引高	900千円	2,548千円
計	900	2,548

2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	2千円	0千円
計	2	0

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次の通りです。

(単位：千円)

区分	前事業年度(平成29年3月31日)	当事業年度(平成30年3月31日)
子会社株式	20,132	49,818
関連会社株式	1,400	223,640
計	21,532	273,458

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(1) 流動資産		
(繰延税金資産)		
たな卸資産	1,832千円	1,098千円
未払事業税	2,271	2,139
賞与引当金	12,045	11,131
未払費用	0	-
その他	0	683
繰延税金資産小計	16,150	15,051
評価性引当額	-	683
繰延税金資産合計	16,150	14,368
(2) 固定資産		
(繰延税金資産)		
減価償却超過額	2,081	1,933
敷金及び保証金	2,894	2,894
退職給付引当金	5,816	7,384
役員退職慰労引当金	14,019	12,341
投資有価証券評価損	525	525
その他	41	41
繰延税金資産小計	25,379	25,118
評価性引当額	14,118	15,801
繰延税金資産合計	11,260	9,317

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.8%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.9	2.1
住民税均等割	1.4	1.7
税額控除	3.9	0.7
評価性引当額の変動	0.9	1.3
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.0	0.1
その他	0.0	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.4	35.3

(重要な後発事象)

連結財務諸表の「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しておりません。



【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		電子システム株式会社	19,310	30,896
		東通産業株式会社	2,000	6,000
		小計	21,310	36,896
		計	21,310	36,896

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	11,742	-	-	11,742	8,435	697	3,306
機械及び装置	440	-	-	440	439	18	0
工具、器具及び備品	38,870	6,482	158	45,194	35,832	5,518	9,361
有形固定資産計	51,052	6,482	158	57,376	44,708	6,235	12,667
無形固定資産							
ソフトウェア	408,686	204,326	-	613,012	345,562	148,233	267,450
ソフトウェア仮勘定	101,441	222,838	204,326	119,954	-	-	119,954
その他	0	-	-	0	-	-	0
無形固定資産計	510,128	427,164	204,326	732,967	345,562	148,233	387,404
長期前払費用	158	259	405	12	-	-	12

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

資産の種類	内容	金額(千円)
ソフトウェア	ソフトウェア仮勘定からの振替額	204,326
ソフトウェア仮勘定	市場販売目的ソフトウェア制作費	222,838

2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

資産の種類	内容	金額(千円)
ソフトウェア仮勘定	ソフトウェアへの振替額	204,326

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	34,095	31,288	34,095	-	31,288
役員賞与引当金	1,647	2,292	1,647	-	2,292
退職給付引当金	18,992	9,416	4,297	-	24,111
役員退職慰労引当金	45,700	5,500	10,900	-	40,300

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年9月30日 毎年3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	(注)1
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告より行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載し、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.chieru.co.jp">http://www.chieru.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1. 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額

2. 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を有しておりません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第20期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年6月29日関東財務局長に提出。

#### (2) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度 第20期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年11月13日関東財務局長に提出。

#### (3) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月29日関東財務局長に提出。

#### (4) 四半期報告書及び確認書

事業年度 第21期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) 平成29年8月10日関東財務局長に提出。

事業年度 第21期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日) 平成29年11月13日関東財務局長に提出。

事業年度 第21期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日) 平成30年2月13日関東財務局長に提出。

#### (5) 臨時報告書

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書 平成29年7月3日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月28日

チエル株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柏 木	忠
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩 崎	剛

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているチエル株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、チエル株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月28日

チエル株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柏 木	忠
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩 崎	剛

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているチエル株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第21期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、チエル株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。